

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2024年 1 月24日
【発行者名】	中銀アセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役 中西 啓介
【本店の所在の場所】	岡山県岡山市北区柳町 2 丁目11番23号
【事務連絡者氏名】	大賀 倫子 連絡場所 岡山県岡山市北区柳町 2 丁目11番23号
【電話番号】	086-224-5310
【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】	先進国資産配分コントロールファンド＜安定型＞（愛称：コア安定） 先進国資産配分コントロールファンド＜成長型＞（愛称：コア成長）
【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券の金額】	継続申込期間（2024年 1 月25日から2024年 7 月23日まで） 先進国資産配分コントロールファンド＜安定型＞（愛称：コア安定） 先進国資産配分コントロールファンド＜成長型＞（愛称：コア成長） 各ファンドにつき、1,000億円を上限とします。 * なお、継続申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【証券情報】

（１）【ファンドの名称】

先進国資産配分コントロールファンド<安定型>（愛称：コア安定）
先進国資産配分コントロールファンド<成長型>（愛称：コア成長）
以上を総称して「ファンド」といい、各々を「各ファンド」ということがあります。
また、各ファンドに共通の内容はまとめて記載します。

（２）【内国投資信託受益証券の形態等】

追加型証券投資信託の振替内国投資信託受益権です。（当初元本は１口当たり１円です。）

委託会社の依頼により、信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付、または信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第２条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託会社である中銀アセットマネジメント株式会社は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

（３）【発行（売出）価額の総額】

各ファンド
１,０００億円を上限とします。

（４）【発行（売出）価格】

１口当たりの発行価格は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

「分配金再投資コース」の取得申込者が、収益分配金の再投資によりファンドを買付ける場合には、決算日の基準価額とします。

「基準価額」とは、ファンドの計算日の純資産総額を計算日の受益権総口数で除した１口当たりの純資産価額をいいます。基準価額は、組入有価証券等の値動き等により日々変動します。なお、便宜上１万口当たりで表示されることがあります。

基準価額は、委託会社の毎営業日において、委託会社により計算され、販売会社または委託会社にお問い合わせいただくことにより知ることができます。

お問い合わせ先

中銀アセットマネジメント株式会社

サポートダイヤル 086-224-5310

< 受付時間 > 営業日の午前９時～午後５時

インターネットホームページ <https://www.chugin-am.jp/>

（５）【申込手数料】

申込手数料はありません。

「分配金再投資コース」の取得申込者が、収益分配金の再投資によりファンドを買付ける場合、申込手数料はかかりません。詳細につきましては、販売会社にお問い合わせください。

なお、販売会社につきましては、後記（８）[申込取扱場所] に記載されているお問い合わせ先をご覧ください。

（６）【申込単位】

販売会社が定める単位とします。

詳細につきましては、販売会社にお問い合わせください。

なお、販売会社につきましては、後記（８）[申込取扱場所] に記載されているお問い合わせ先をご覧ください。

（ 7 ）【申込期間】

2024年1月25日から2024年7月23日まで

取得申込みの受付は、日本における販売会社の営業日に限り行われます。ただし、次のいずれかに該当する日（以下「申込不可日」といいます。）には、取得の申込みはできません。（申込不可日は、販売会社または委託会社において確認することができます。）

- ・ニューヨーク証券取引所の休業日
- ・ニューヨークの銀行の休業日
- ・ロンドン証券取引所の休業日
- ・ロンドンの銀行の休業日

申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。

（ 8 ）【申込取扱場所】

当ファンドのお申込みにかかる取扱い等は販売会社が行っております。

販売会社につきましては、委託会社にお問い合わせください。

お問い合わせ先

中銀アセットマネジメント株式会社

サポートダイヤル 086-224-5310

< 受付時間 > 営業日の午前9時～午後5時

インターネットホームページ <https://www.chugin-am.jp/>

（ 9 ）【払込期日】

取得申込者は、お申込みをされた販売会社が定める所定の日時までに、買付代金を販売会社に支払うものとします。各取得申込日の発行価額の総額は、販売会社によって、追加信託が行われる日に、委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座（受託会社が信託事務の一部について委託を行っている場合は当該委託先の口座）に払込まれます。

（ 10 ）【払込取扱場所】

取得申込みを行った販売会社で払込みの取扱いを行います。

詳細につきましては、販売会社にお問い合わせください。

なお、販売会社につきましては、前記（ 8 ）【申込取扱場所】に記載されているお問い合わせ先をご覧ください。

（ 11 ）【振替機関に関する事項】

ファンドの受益権に係る振替機関は、株式会社 証券保管振替機構です。

（ 12 ）【その他】

お申込みに際しては、販売会社所定の方法でお申込みください。

当ファンドは、収益の分配が行われた場合に収益分配金を受領する「分配金受取コース」と、収益分配金を申込手数料なしで再投資する「分配金再投資コース」がありますが、お申込みになる販売会社によっては、どちらか一方のコースのみの取扱いとなります。「分配金再投資コース」を取得申込者が選

択した場合には、取得申込者は販売会社との間で「累積投資に関する契約」にしたがって分配金再投資に関する契約を締結します。なお、販売会社によっては、当該契約または規定について、同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定を使用することがあり、この場合、当該別の名称に読み替えるものとします。

また、あらかじめ決められた一定の金額を一定期間毎に定時定額購入（積立）をすることができる場合があります。

当ファンドのお申込みは、原則として販売会社の毎営業日に行われます。お申込みの受付は、原則として午後３時までにお申込みが行われ、かつ、お申込みの受付にかかる販売会社の所定の事務手続きが完了したものを当日のお申込みとします。

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、お申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けたお申込みの受付を取り消すことができるものとします。

振替受益権について

ファンドの受益権は、投資信託振替制度（以下「振替制度」と称する場合があります。）における振替受益権です。

ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、上記（１１）[振替機関に関する事項]に記載の振替機関の振替業に係る業務規程等の規則にしたがって取り扱われるものとします。

ファンドの分配金、償還金、換金代金は、社振法および上記（１１）[振替機関に関する事項]に記載の振替機関の業務規程、その他の規則にしたがって支払われます。

ファンドの受益権の発生、消滅、移転を、コンピュータシステムにて管理します。

ファンドの設定、解約、償還等が、コンピュータシステム上の帳簿（「振替口座簿」といいます。）への記載・記録によって行われますので、受益証券は発行されません。

申込証拠金はありません。

日本以外の地域における発行はありません。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

（1）【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的

ファンド・オブ・ファンズ方式 により、信託財産の成長を目指して運用を行います。

ファンド・オブ・ファンズ方式とは、株式や債券等に直接投資するのではなく、複数の他の投資信託証券に投資する仕組みです。ファンド・オブ・ファンズとは、一般社団法人投資信託協会が定める規則（「投資信託等の運用に関する規則」第2条）に規定するファンド・オブ・ファンズをいいます。

信託金の限度額

委託会社は、各ファンド金1,000億円を限度として信託金を追加することができます。委託会社は、受託会社と合意のうえ、この限度額を変更することができます。

ファンドの商品分類

ファンドは、一般社団法人投資信託協会が定める商品分類において、「追加型投信 / 内外 / 資産複合」に分類されます。

ファンドの商品分類は、以下のとおりです。

商品分類表（ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。）

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型投信	国 内	株 式
		債 券
	海 外	不動産投信
追加型投信	内 外	その他資産 ()
		資産複合

属性区分表（ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。）

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル (日本を含む)		
	年2回			
	年4回	日本		
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ()	年6回 (隔月)	北米	ファミリーファ ンド	あり (部分ヘッジ)
	年12回 (毎月)	欧州		
	年12回 (毎月)	アジア		
	日々	オセアニア		
不動産投信		中南米		なし
その他資産 (投資信託証券(資産複 合(株式・債券)))	その他 ()	アフリカ	ファンド・オブ・ ファンズ	
		中近東 (中東)		
資産複合 () 資産配分固定型 資産配分変更型		エマージング		

ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行うため、投資信託証券を通じて収益の源泉となる資産に投資しますので、属性区分におけるファンドの投資対象資産は、「その他資産（投資信託証券）」となり、商品分類における投資対象資産（収益の源泉）である「資産複合」とは分類・区分が異なります。

商品分類および属性区分の定義につきましては、下記をご覧ください。なお、一般社団法人投資信託協会のインターネットホームページ（<https://www.toushin.or.jp/>）でもご覧いただけます。

一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づくファンドの商品分類および属性区分は以下のとおりです。

〔商品分類表の定義〕

《単位型投信・追加型投信の区分》

- (1) 単位型投信・・・当初、募集された資金が一つの単位として信託され、その後の追加設定は一切行われないファンドをいう。
- (2) 追加型投信・・・一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ、従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。

《投資対象地域による区分》

- (1) 国内・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (2) 海外・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (3) 内外・・・目論見書又は投資信託約款において、国内及び海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

《投資対象資産による区分》

- (1) 株式・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (2) 債券・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (3) 不動産投信（リート）・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券及び不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (4) その他資産・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に上記（ 1 ）から（ 3 ）に掲げる資産以外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、その他資産と併記して具体的な組入資産そのものの名称記載も可とする。
- (5) 資産複合・・・目論見書又は投資信託約款において、上記（ 1 ）から（ 4 ）に掲げる資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

《独立した区分》

- (1) MMF（マネー・マネージメント・ファンド）・・・「MMF等の運営に関する規則」に定めるMMFをいう。
- (2) MRF（マネー・リザーブ・ファンド）・・・「MMF等の運営に関する規則」に定めるMRFをいう。
- (3) ETF・・・投資信託及び投資法人に関する法律施行令（平成12年政令480号）第12条第1号及び第2号に規定する証券投資信託並びに租税特別措置法（昭和32年法律第26号）第9条の4の2に規定する上場証券投資信託をいう。

《補足分類》

- (1) インデックス型・・・目論見書又は投資信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいう。
- (2) 特殊型・・・目論見書又は投資信託約款において、投資者に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。なお、〔属性区分表の定義〕で《特殊型》の小分類において「条件付運用型」に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記するものとし、それ以外的小分類に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記できるものとする。

〔属性区分表の定義〕

《投資対象資産による属性区分》

（１）株式

一般・・・次の大型株、中小型株属性にあてはまらない全てのものをいう。

大型株・・・目論見書又は投資信託約款において、主として大型株に投資する旨の記載があるものをいう。

中小型株・・・目論見書又は投資信託約款において、主として中小型株に投資する旨の記載があるものをいう。

（２）債券

一般・・・次の国債、社債、その他債券属性にあてはまらない全てのものをいう。

公債・・・目論見書又は投資信託約款において、日本国又は各国の政府の発行する国債（地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含む。以下同じ。）に主として投資する旨の記載があるものをいう。

社債・・・目論見書又は投資信託約款において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるものをいう。

その他債券・・・目論見書又は投資信託約款において、国債又は社債以外の債券に主として投資する旨の記載があるものをいう。

格付等クレジットによる属性・・・目論見書又は投資信託約款において、上記 から の「発行体」による区分のほか、特にクレジットに対して明確な記載があるものについては、上記 から に掲げる区分に加え「高格付債」「低格付債」等を併記することも可とする。

（３）不動産投信・・・これ以上の詳細な分類は行わないものとする。

（４）その他資産・・・組入れている資産を記載するものとする。

（５）資産複合・・・以下の小分類に該当する場合には当該小分類を併記することができる。

資産配分固定型・・・目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については固定的とする旨の記載があるものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。

資産配分変更型・・・目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については、機動的な変更を行う旨の記載があるものもしくは固定的とする旨の記載がないものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。

《決算頻度による属性区分》

（１）年１回・・・目論見書又は投資信託約款において、年１回決算する旨の記載があるものをいう。

（２）年２回・・・目論見書又は投資信託約款において、年２回決算する旨の記載があるものをいう。

（３）年４回・・・目論見書又は投資信託約款において、年４回決算する旨の記載があるものをいう。

（４）年６回（隔月）・・・目論見書又は投資信託約款において、年６回決算する旨の記載があるものをいう。

（５）年１２回（毎月）・・・目論見書又は投資信託約款において、年１２回（毎月）決算する旨の記載があるものをいう。

（６）日々・・・目論見書又は投資信託約款において、日々決算する旨の記載があるものをいう。

（７）その他・・・上記属性にあてはまらない全てのものをいう。

《投資対象地域による属性区分（重複使用可能）》

（１）グローバル・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、「世界の資産」の中に「日本」を含むか含まないかを明確に記載するものとする。

（２）日本・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

（３）北米・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

（４）欧州・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

（５）アジア・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

（６）オセアニア・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

- (7) 中南米・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (8) アフリカ・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がアフリカ地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (9) 中近東（中東）・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中近東地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (10) エマージング・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域（新興成長国（地域））の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

《投資形態による属性区分》

- (1) ファミリーファンド・・・目論見書又は投資信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。）を投資対象として投資するものをいう。
- (2) ファンド・オブ・ファンズ・・・「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいう。

《為替ヘッジによる属性区分》

- (1) 為替ヘッジあり・・・目論見書又は投資信託約款において、為替のフルヘッジ又は一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいう。
- (2) 為替ヘッジなし・・・目論見書又は投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるもの又は為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいう。

《インデックスファンドにおける対象インデックスによる属性区分》

- (1) 日経225
- (2) TOPIX
- (3) その他の指数・・・上記指数にあてはまらない全てのものをいう。

《特殊型》

- (1) ブル・ベア型・・・目論見書又は投資信託約款において、派生商品をヘッジ目的以外に用い、積極的に投資を行うとともに各種指数・資産等への連動若しくは逆連動（一定倍の連動若しくは逆連動を含む。）を目指す旨の記載があるものをいう。
- (2) 条件付運用型・・・目論見書又は投資信託約款において、仕組債への投資またはその他特殊な仕組みを用いることにより、目標とする投資成果（基準価額、償還価額、収益分配金等）や信託終了日等が、明示的な指標等の値により定められる一定の条件によって決定される旨の記載があるものをいう。
- (3) ロング・ショート型／絶対収益追求型・・・目論見書又は投資信託約款において、特定の市場に左右されにくい収益の追求を目指す旨若しくはロング・ショート戦略により収益の追求を目指す旨の記載があるものをいう。
- (4) その他型・・・目論見書又は投資信託約款において、上記（ 1 ）から（ 3 ）に掲げる属性のいずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。

ファンドの特色

各ファンドは、世界の株式や債券を主な投資対象とし、投資環境の変化に合わせて組入比率を変更する投資信託です。

ファンドの目的

日本を含む世界各国の株式、債券および短期金融資産を実質的な主要投資対象とし、値上がり益の獲得および利子・配当等収益の確保をめざします。

ファンドの特色

◆ 投資対象

各ファンドは、指定投資信託証券への投資を通じて、国内および先進国の株式、債券および短期金融資産に実質的な投資を行います。

<各ファンドの特徴>

各ファンド	特 徴
<安定型>	・国内、先進国の株式・債券および短期公社債等に投資するファンドです。 ・国内株式、先進国株式の組入比率を抑えて、安定的な基準価額の上昇をめざすファンドです。
<成長型>	・国内、先進国の株式・債券および短期公社債等に投資するファンドで、<安定型>と比較して国内株式、先進国株式の組入比率を高めることが可能です。 ・<安定型>と比較して、株式相場上昇局面における株式の値上がり益の獲得をめざすファンドで、値動きはより大きくなる傾向があります。

※運用期間、市況動向によっては、上記の傾向とならない場合があります。

<指定投資信託証券>

投資信託証券名	主要投資対象	運用目標
MUAMインデックスファンドTOPIXI (適格機関投資家限定)	国内株式	東証株価指数(TOPIX)(配当込み)と連動する投資成果をめざして運用を行います。
MUKAM外国株式インデックスファンド2 (適格機関投資家限定)	先進国株式 (国内株式を除く)	MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)と連動する投資成果をめざして運用を行います。
MUKAM日本債券インデックスファンド2 (適格機関投資家限定)	国内債券	NOMURA-BPI総合インデックスと連動する投資成果をめざして運用を行います。
国内物価連動国債インデックスファンド (適格機関投資家限定)	国内債券 (物価連動国債)	NOMURA物価連動国債インデックス(フロアあり)と連動する投資成果をめざして運用を行います。
MUKAM外国債券インデックスファンド2 (適格機関投資家限定)	先進国債券 (国内債券を除く)	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円換算ベース)と連動する投資成果をめざして運用を行います。
MUKAMヘッジ付外国債券インデックスファンド2 (適格機関投資家限定)	先進国債券 (国内債券を除く)	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)と連動する投資成果をめざして運用を行います。
マネーボールファンド(FOFs用) (適格機関投資家限定)	国内の短期公社債等	安定した収益の確保をめざして安定運用を行います。

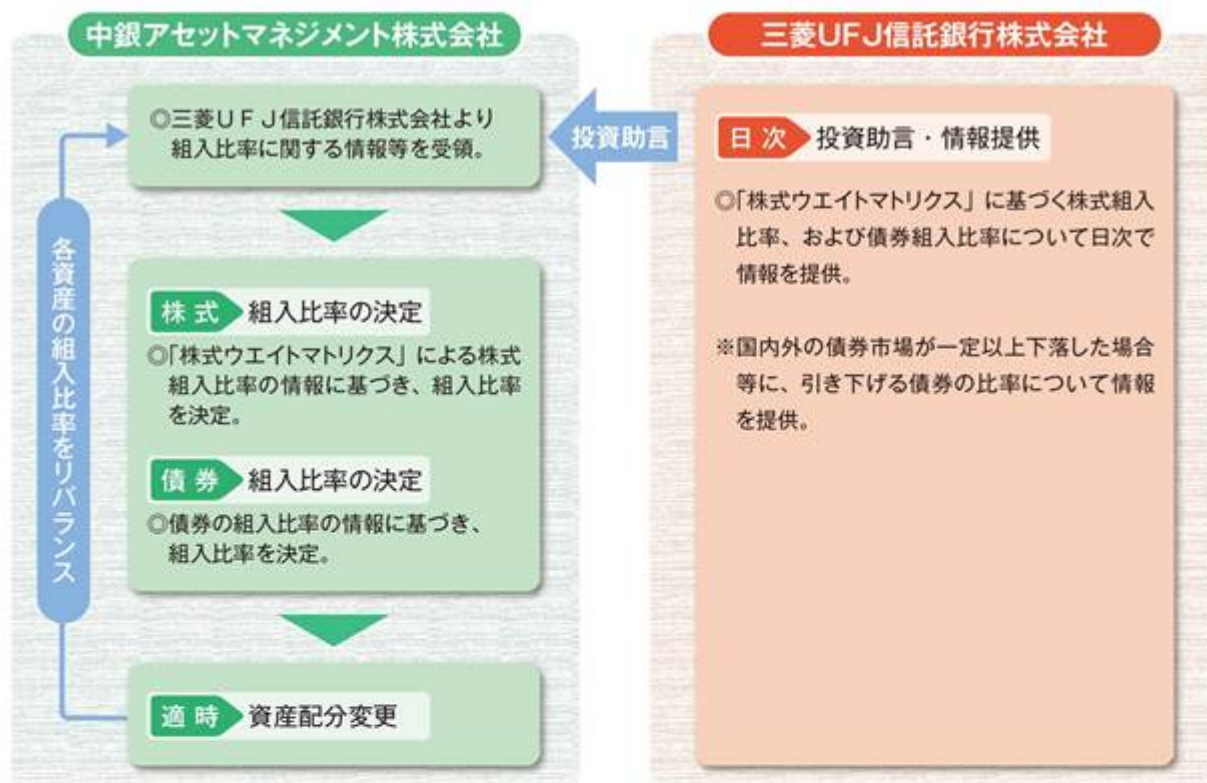
※指定投資信託証券は、定性・定量評価等により適宜見直しを行います。この際、指定投資信託証券として指定されていた投資信託証券を指定から外したり、新たに投資信託証券(ファンド設定以降に設定された投資信託証券も含みます。)を指定投資信託証券として指定する場合があります。

資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

◆ 運用方法／プロセス

- ファンドの運用プロセスは以下の通りです。

<ファンドの運用プロセス>



※上記の運用プロセスは変更される場合があります。

- 三菱UFJ信託銀行株式会社の投資助言・情報提供に基づき、中銀アセットマネジメント株式会社が運用を行います。
- 各資産の組入比率は以下の範囲で変動します。

<各資産の組入比率>

	<安定型>	<成長型>
国内株式	0.0%~12.0%	0.0%~42.5%
先進国株式	0.0%~12.0%	0.0%~42.5%
国内債券	0.0%~51.0%	0.0%~51.0%
先進国債券	0.0% ~ 25.0% (原則25.0%固定とします)	0.0% ~ 25.0% (原則13.0%~25.0%とします)

※上記以外に短期金融資産を組入れる場合があります。

※上記組入比率は、今後、変更となる場合があります。

- 株式の組入比率については、投資環境や株式部分の収益寄与に基づいて決定する「株式ウェイトマトリクス」を活用します。
- 「投資環境」は、株式市場や景気の方角性、信用リスクに対する市場の反応の大きさ、株式市場の値動きの大きさ等を測る複数の指標を用いて計算される相場局面判断インデックスをもとに判断します。
- 「株式部分の収益寄与」は、過去の株式の収益率に組入比率を勘案して算出します。

※「株式ウェイトマトリクス」は、各ファンドごとおよび各資産（国内株式、先進国株式）ごとに異なります。また、「投資環境」を判断する各指標については、今後変更になる場合があります。

<株式ウェイトマトリクスのイメージ>



※上記株式ウェイトマトリクスはイメージであり、実際の運用に用いるものとは異なる場合があります。

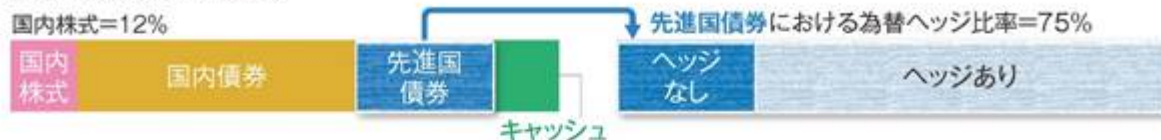
- <安定型>は、株式部分以外への投資については、先進国債券に一定の比率で投資を行い、残りは国内債券等に投資します。
- <成長型>は、株式の組入比率を決定したのち先進国債券の組入比率を決定し、残りは国内債券等に投資します。
- 国内債券における物価連動国債の比率および先進国債券における為替ヘッジの比率は、国内株式の組入比率に連動して変更します。
- 国内外の債券市場が下落した場合等に債券の組入比率を引き下げ、マネーボールファンド等への投資を行う場合があります。

◆ 為替対応方針

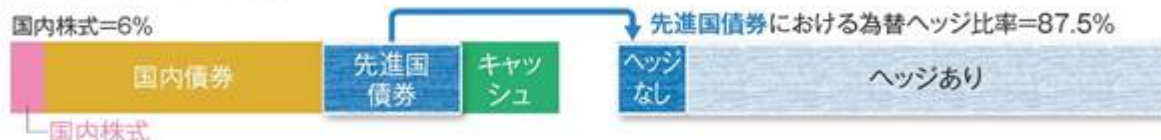
- 実質組入外貨資産のうち株式部分については、原則として為替ヘッジを行いません。
- 実質組入外貨資産のうち債券部分については、株式ウエイトマトリクスに基づく、国内株式組入比率に連動して、ヘッジを行う部分のウエイトを75%～100%の範囲で変更します。

<（ご参考）安定型>の先進国債券における為替ヘッジ比率変更のイメージ>

◆ 国内株式組入比率が最高時



◆ 国内株式組入比率が中間時



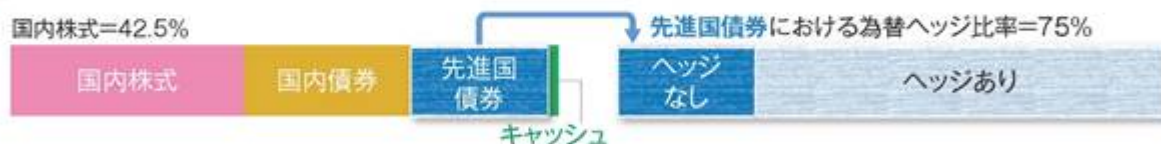
◆ 国内株式組入比率が最低時



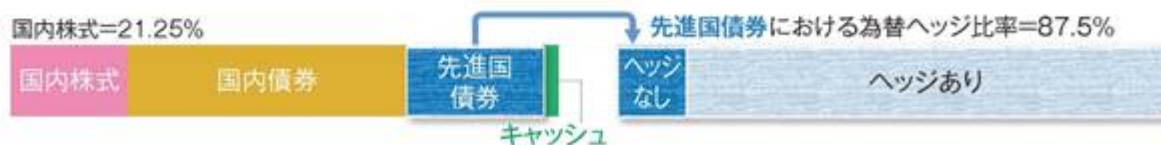
※上図はファンドの組入比率および為替ヘッジ比率の変更をご理解いただくために、＜安定型＞における各比率の変更をイメージとして示したものであり、上記と同じ条件での＜成長型＞の組入比率とは異なります。なお、先進国株式の組入比率は0%と仮定しております。

<（ご参考）成長型>の先進国債券における為替ヘッジ比率変更のイメージ>

◆ 国内株式組入比率が最高時



◆ 国内株式組入比率が中間時



◆ 国内株式組入比率が最低時



※上図はファンドの組入比率および為替ヘッジ比率の変更をご理解いただくために、＜成長型＞における各比率の変更をイメージとして示したものであり、上記と同じ条件での＜安定型＞の組入比率とは異なります。なお、先進国株式の組入比率は0%と仮定しております。

◆ 物価連動国債対応方針

- 国内債券部分について、インフレ局面に対応すべく、一部物価連動国債への投資を行います。
- 国内債券部分のうち物価連動国債については、株式ウエイトマトリクスに基づく、国内株式組入比率に連動して、物価連動国債部分のウエイトを0%～30%の範囲で変更します。

<（ご参考）安定型>の国内債券における物価連動国債比率変更のイメージ>

◆ 国内株式組入比率が最高時



◆ 国内株式組入比率が中間時



◆ 国内株式組入比率が最低時



※上図はファンドの組入比率および物価連動国債の比率の変更をご理解いただくために、＜安定型＞における各比率の変更をイメージとして示したものであり、上記と同じ条件での＜成長型＞の組入比率とは異なります。なお、先進国株式の組入比率は0%と仮定しております。

<（ご参考）成長型>の国内債券における物価連動国債比率変更のイメージ>

◆ 国内株式組入比率が最高時



◆ 国内株式組入比率が中間時



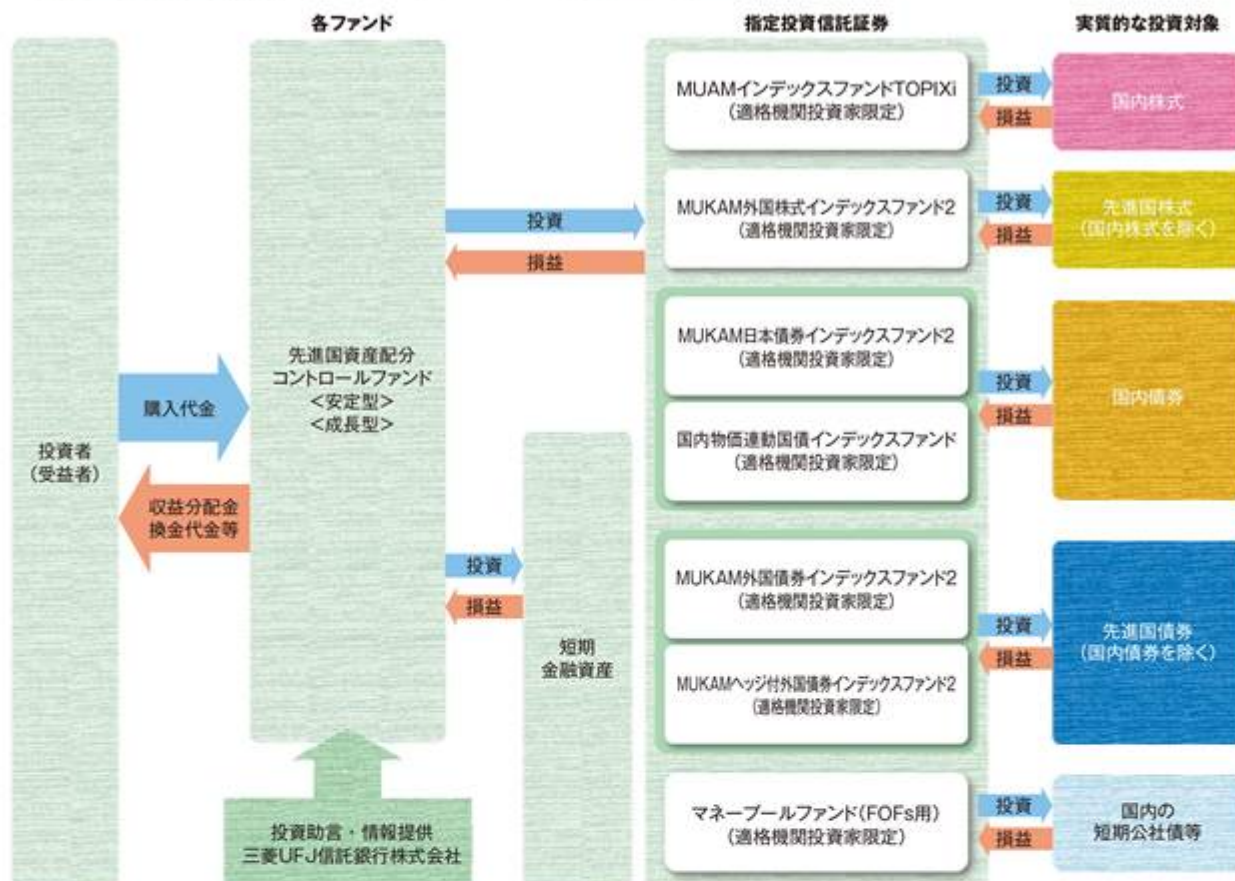
◆ 国内株式組入比率が最低時



※上図はファンドの組入比率および物価連動国債の比率の変更をご理解いただくために、＜成長型＞における各比率の変更をイメージとして示したものであり、上記と同じ条件での＜安定型＞の組入比率とは異なります。なお、先進国株式の組入比率は0%と仮定しております。

◆ ファンドの仕組み

●運用は主に指定投資信託証券への投資を通じて、日本を含む世界各国の株式、公社債および国内の短期金融資産へ実質的に投資するファンド・オブ・ファンズ方式により行います。



※指定投資信託証券は、定性・定量評価等により適宜見直しを行います。この際、指定投資信託証券として指定されていた投資信託証券を指定から外したり、新たに投資信託証券（ファンド設定以降に設定された投資信託証券も含みます。）を指定投資信託証券として指定する場合があります。

◆ 主な投資制限

- ・株式への直接投資は行いません。
- ・投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。
- ・外貨建資産への直接投資は行いません。
- ・同一銘柄の投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。
- ・投資信託証券を通じて行う場合において、デリバティブ取引（法人税法第61条の5に定めるものをいいます。）は、価格変動、金利変動および為替変動により生じるリスクを減じる目的ならびに投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。

◆ 収益分配方針

毎年4月23日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき収益分配を行います。

- ・分配対象額の範囲は、経費等控除後の繰越分を含めた配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
- ・収益分配金額は、委託者が分配可能額、基準価額水準、市況動向等を勘案のうえ決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。
- ・収益の分配に充てなかった留保益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

※将来の収益分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

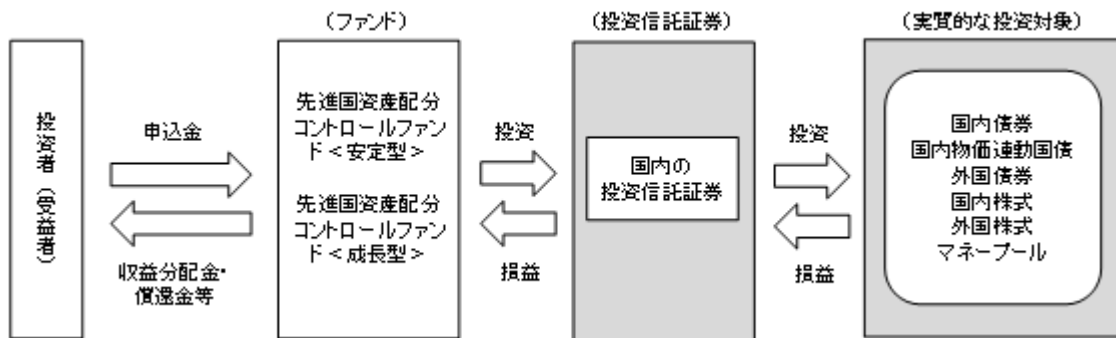
資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

（２）【ファンドの沿革】

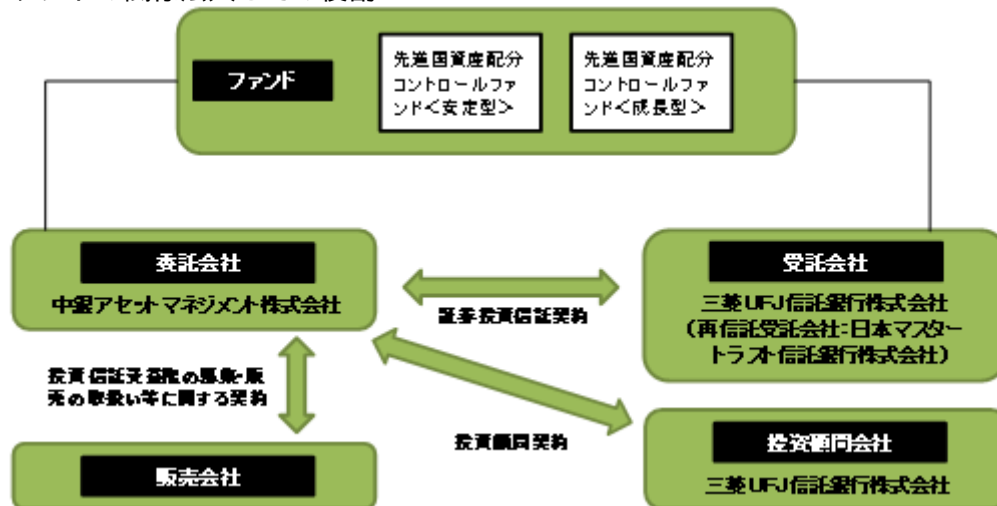
2016年4月28日 信託契約締結、設定、運用開始

（３）【ファンドの仕組み】

ファンド・オブ・ファンズ方式



ファンドの関係法人とその役割



関係法人	役割
委託会社	中銀アセットマネジメント株式会社 信託契約に基づき、信託財産の運用指図、信託財産の計算（基準価額の計算）、収益分配金、償還金および解約金の支払い、投資信託説明書（交付目論見書）、投資信託説明書（請求目論見書）および運用報告書の作成・交付等を行います。
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社 信託契約に基づき、信託財産の保管・管理・計算、委託会社の指図に基づく信託財産の処分等を行います。
再信託受託会社	日本マスタートラスト信託銀行株式会社 受託会社との再信託契約に基づき、所定の事務を行います。
投資顧問会社	三菱UFJ信託銀行株式会社 運用に係る助言および情報提供を行います。
販売会社	委託会社との間に締結した「投資信託受益権の取扱いに関する契約」に基づき、受益権の募集の取扱い、投資信託説明書（交付目論見書）、投資信託説明書（請求目論見書）および運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金および解約金の支払事務等を行います。

委託会社が関係法人と締結している契約等の概要

イ．受託会社との信託契約

受託会社とは、受益者の利殖に資する目的で、投資信託約款の通り信託契約を締結しております。

ロ．投資顧問会社との投資顧問契約

ファンドの運用のための情報および助言等の提供についての方法ならびに投資顧問会社が受ける投資顧問報酬等を定めた投資顧問契約を締結しております。

ハ．販売会社との投資信託受益権の取扱いに関する契約

委託会社は、販売会社に対し、次の業務を委託し、販売会社はこれを引き受けます。

- a．受益権の募集・販売の取扱い
- b．追加設定の申込受付事務
- c．受益者に対する収益分配金の再投資事務
- d．受益者に対する一部解約等の事務
- e．受益者に対する受益権の買取
- f．受益者に対する一部解約金および償還金・収益分配金の支払事務
- g．受益者に対する運用報告書の交付
- h．その他前記の業務に付随する業務

販売会社によって引き受ける業務が異なる場合があります。

委託会社の概況（2023年11月末現在）

イ．名称

中銀アセットマネジメント株式会社

ロ．本店の所在の場所

岡山県岡山市北区柳町2丁目11番23号

八．資本金

1 億2,000万円

二．委託会社の沿革

1987年11月 9 日	「中銀投資顧問株式会社」設立(資本金5,000万円)
1988年 2 月12日	投資顧問業者登録（中国財務局長第 7 号）
1988年10月 1 日	増資の実施（新資本金1億2,000万円）
1989年12月18日	投資一任契約に係る業務の認可（大蔵大臣第142号）
2002年 6 月28日	商号を「中銀アセットマネジメント株式会社」に変更
2002年 9 月 9 日	運用コンサルタント業務・投資信託の評価情報提供業務の兼業承認（中国財務局長第310号）
2005年 8 月29日	外国為替運用業務兼業承認（中国財務局長第311号）
2007年 9 月30日	金融商品取引業者登録（中国財務局長第10号）
2011年12月21日	投資信託委託業務届出
2017年 8 月 7 日	第二種金融商品取引業登録
2022年10月 3 日	株式会社ちゅうぎんフィナンシャルグループによる完全子会社化

ホ．大株主の状況

名 称	住 所	持株数	持株比率
株式会社ちゅうぎんフィナンシャルグループ	岡山県岡山市北区丸の内 1 丁目15番20号	1,200株	100.00%

2【投資方針】

（１）【投資方針】

基本方針

この投資信託は、ファンド・オブ・ファンズ方式により、信託財産の成長を目指して運用を行います。

運用方法

イ．投資対象

投資信託証券を主要投資対象とします。

ロ．投資態度

- a．投資信託証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の株式、債券に実質的な投資を行います。
- b．先進国資産配分コントロールファンド＜安定型＞（愛称：コア安定）
運用につきましては、安定性を重視します。
先進国資産配分コントロールファンド＜成長型＞（愛称：コア成長）
運用につきましては、安定性と収益性のバランスを重視します。
- c．投資対象とする投資信託証券は、原則として、別に定める投資信託証券（以下「指定投資信託証券」といいます。）の中から選定します。なお、選定する投資信託証券は、定性・定量評価等により適宜見直しを行います。この際、指定投資信託証券として指定されていた投資信託証券を指定から外したり、新たに投資信託証券（ファンド設定以降に設定された投資信託証券も含みます。）を指定投資信託証券として指定する場合があります。
- d．指定投資信託証券の投資配分比率については、三菱UFJ信託銀行株式会社からの投資助言および情報提供をもとに決定します。なお、一部の指定投資信託証券への投資配分比率がゼロとなる場合があります。
- e．投資信託証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。
- f．実質組入外貨建資産については、為替ヘッジを行う場合があります。
- g．市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

「指定投資信託証券」とは、日本を含む世界各国の株式、債券に実質的な投資を行う次に掲げる投資信託証券をいいます。

追加型証券投資信託	MUAM インデックスファンドTOPIX i（適格機関投資家限定）
追加型証券投資信託	MUKAM 外国株式インデックスファンド2（適格機関投資家限定）
追加型証券投資信託	MUKAM 日本債券インデックスファンド2（適格機関投資家限定）
追加型証券投資信託	国内物価連動国債インデックスファンド（適格機関投資家限定）
追加型証券投資信託	MUKAM 外国債券インデックスファンド2（適格機関投資家限定）
追加型証券投資信託	MUKAM ヘッジ付外国債券インデックスファンド2（適格機関投資家限定）
追加型証券投資信託	マネープールファンド（FOFs用）（適格機関投資家限定）

（２）【投資対象】

投資の対象とする資産の種類

この投資信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第２条第１項で定めるものをいいます。以下同じ。）

- a．有価証券
- b．約束手形
- c．金銭債権

運用の指図範囲

イ．有価証券

この信託において投資の対象とする有価証券（金融商品取引法第２条第２項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）は、指定投資信託証券（投資信託および外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第２条第１項第10号で定めるものをいいます。））ならびに投資証券および外国投資証券（金融商品取引法第２条第１項第11号で定めるものをいいます。）をいいます。以下同じ。）のほか、次に掲げるものとします。なお、当該有価証券は本邦通貨表示のものに限ります。

- a．国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券および社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券を除きます。）
- b．コマーシャル・ペーパー
- c．外国または外国の者の発行する本邦通貨表示の証券で、bの証券の性質を有するもの
- d．指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第２条第１項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、aの証券を以下「公社債」といい、公社債に係る運用の指図は短期社債等への投資ならびに買い現先取引（売戻条件付の買入れ）および債券貸借取引（現金担保付債券借入れ）に限り行うことができます。

ロ．金融商品

委託会社は、信託金を、イに掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

a．預金

b．指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）

c．コール・ローン

d．手形割引市場において売買される手形

ハ．特別な場合の運用指図

イの規定にかかわらず、このファンドの設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を、前記の金融商品により運用することの指図ができます。

（参考）各ファンドが投資対象とする指定投資信託証券の概要

（本（参考）欄における「当ファンド」とは各指定投資信託証券をいいます。）

名称	MUAMインデックスファンドTOPIX i（適格機関投資家限定）
形態等	国内籍の私募投資信託
信託期間	2028年8月14日まで（2013年7月11日設定）
決算日	毎年8月14日、2月14日（休業日の場合は翌営業日）
基本方針	この投資信託は、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）と連動する投資成果をめざして運用を行います。
投資対象	TOPIXマザーファンド受益証券またはわが国の株式を主要投資対象とします。
関係法人	委託会社：三菱UFJアセットマネジメント株式会社 受託会社：三菱UFJ信託銀行株式会社（再信託：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）
投資態度	東京証券取引所に上場されている株式、TOPIXマザーファンド受益証券および有価証券指数等先物取引等に投資を行い、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）に連動する投資成果をめざして運用を行います。 株式の実質投資比率（組入現物株式の時価総額に株価指数先物取引等の買建額を加算し、または株価指数先物取引等の売建額を控除した額の信託財産の純資産総額に対する割合に、TOPIXマザーファンドにおける株式の実質投資比率に当ファンドの当該マザーファンド受益証券への投資比率を乗じて得た割合を加算した比率）は、高位を維持します。 対象インデックスとの連動を維持するため、先物取引等を利用し株式の実質投資比率が100%を超える場合があります。 株式以外の資産への実質投資割合（信託財産に属する株式以外の資産の時価総額と信託財産に属するマザーファンド受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の総額に占める株式以外の資産の時価総額の割合を乗じて得た額との合計額が信託財産の総額に占める割合）は、原則として信託財産の総額の50%以下とします。 市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。
投資制限等	株式への実質投資割合に制限を設けません。 新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以下とします。 投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 外貨建資産への投資は行いません。 有価証券先物取引等を行うことができます。 スワップ取引は効率的な運用に資するため行うことができます。 デリバティブ取引（法人税法第61条の5に定めるものをいいます。）は、価格変動リスクおよび金利変動リスクを減じる目的ならびに投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。
運用管理費用（信託報酬）等	日々の純資産総額に対して、年率0.154%（税込）（年率0.14%（税抜））をかけた額とします。 消費税等相当額を含みます。なお、消費税率に応じて変更となることがあります。

名称	M U K A M 外国株式インデックスファンド 2（適格機関投資家限定）
形態等	国内籍の私募投資信託
信託期間	2028年 5 月12日まで（2018年 3 月16日設定）
決算日	毎年 5 月12日（休業日の場合は翌営業日）
基本方針	この投資信託は、M S C I コクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）に連動する投資成果をめざして運用を行います。
投資対象	外国株式インデックスマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、日本を除く先進国の株式に直接投資することがあります。
関係法人	委託会社：三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社 受託会社：三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社（再信託：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）
投資態度	外国株式インデックスマザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を除く先進国の株式に投資を行います。 マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。 対象インデックスとの連動を維持するため、先物取引等を利用し株式の実質投資比率が100%を超える場合があります。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。
投資制限等	株式への実質投資割合に制限を設けません。 新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以下とします。 投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の 5 %以下とします。 同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。 有価証券先物取引等を行うことができます。 スワップ取引は効率的な運用に資するため行うことができます。 外国為替予約取引は効率的な運用に資するため行うことができます。 デリバティブ取引（法人税法第61条の 5 に定めるものをいいます。）は、価格変動リスク、金利変動リスクおよび為替変動リスクを減じる目的ならびに投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。
運用管理費用（信託報酬）等	日々の純資産総額に対して、年率0.165%（税込）（年率0.15%（税抜））をかけた額とします。 消費税等相当額を含みます。なお、消費税率に応じて変更となる場合があります。

名称	M U K A M 日本債券インデックスファンド2（適格機関投資家限定）
形態等	国内籍の私募投資信託
信託期間	2028年5月12日まで（2018年3月16日設定）
決算日	毎年5月12日（休業日の場合は翌営業日）
基本方針	この投資信託は、N O M U R A - B P I 総合に連動する投資成果をめざして運用を行います。
投資対象	日本債券インデックスマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、わが国の公社債に直接投資することがあります。
関係法人	委託会社：三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社 受託会社：三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社（再信託：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）
投資態度	日本債券インデックスマザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国の公社債に投資を行います。 マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。 対象インデックスとの連動を維持するため、先物取引等を利用し公社債の実質投資比率が100%を超える場合があります。 市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。
投資制限等	株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 外貨建資産への投資は行いません。 有価証券先物取引等を行うことができます。 スワップ取引は効率的な運用に資するため行うことができます。 デリバティブ取引（法人税法第61条の5に定めるものをいいます。）は、価格変動リスクおよび金利変動リスクを減じる目的ならびに投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。
運用管理費用（信託報酬）等	日々の純資産総額に対して、年率0.11%（税込）（年率0.10%（税抜））をかけた額とします。 消費税等相当額を含みます。なお、消費税率に応じて変更となる場合があります。

名称	国内物価連動国債インデックスファンド（適格機関投資家限定）
形態等	国内籍の私募投資信託
信託期間	2026年2月20日まで（2016年3月25日設定）
決算日	毎年2月23日（休業日の場合は翌営業日）
基本方針	この投資信託は、NOMURA物価連動国債インデックス（フロアあり）に連動する投資成果をめざして運用を行います。
投資対象	わが国の物価連動国債を主要投資対象とします。
関係法人	委託会社：三菱ＵＦＪアセットマネジメント株式会社 受託会社：三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社（再信託：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）
投資態度	主としてわが国の物価連動国債に投資を行い、NOMURA物価連動国債インデックス（フロアあり）に連動する投資成果をめざして運用を行います。 物価連動国債の組入比率は高位を維持することを基本とします。 対象インデックスとの連動を維持するため、先物取引等を利用し債券の実質投資比率が100%を超える場合があります。 市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。
投資制限等	株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 外貨建資産への投資は行いません。 有価証券先物取引等を行うことができます。 スワップ取引は効率的な運用に資するため行うことができます。 デリバティブ取引（法人税法第61条の5に定めるものをいいます。）は、価格変動リスクおよび金利変動リスクを減じる目的ならびに投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。
運用管理費用（信託報酬）等	日々の純資産総額に対して、年率0.2365%（税込）（年率0.215%（税抜））をかけた額とします。 消費税等相当額を含みます。なお、消費税率に応じて変更となる場合があります。

名称	M U K A M 外国債券インデックスファンド2（適格機関投資家限定）
形態等	国内籍の私募投資信託
信託期間	2028年5月12日まで（2007年3月16日設定）
決算日	毎年5月12日（休業日の場合は翌営業日）
基本方針	この投資信託は、F T S E 世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）に連動する投資成果をめざして運用を行います。
投資対象	外国債券インデックスマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、日本を除く世界各国の公社債に直接投資することがあります。
関係法人	委託会社：三菱UFJアセットマネジメント株式会社 受託会社：三菱UFJ信託銀行株式会社（再信託：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）
投資態度	外国債券インデックスマザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を除く世界各国の公社債に投資を行います。 マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。 対象インデックスとの連動を維持するため、先物取引等を利用し公社債の実質投資比率が100%を超える場合があります。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。なお、対象インデックスとの連動を維持するため、外国為替予約取引を行うことがあります。 市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。
投資制限等	株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。 有価証券先物取引等を行うことができます。 スワップ取引は効率的な運用に資するため行うことができます。 外国為替予約取引は効率的な運用に資するため行うことができます。 デリバティブ取引（法人税法第61条の5に定めるものをいいます。）は、価格変動リスク、金利変動リスクおよび為替変動リスクを減じる目的ならびに投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。
運用管理費用（信託報酬）等	日々の純資産総額に対して、年率0.132%（税込）（年率0.12%（税抜））をかけた額とします。 消費税等相当額を含みます。なお、消費税率に応じて変更となる場合があります。

名称	M U K A M ヘッジ付外国債券インデックスファンド2（適格機関投資家限定）
形態等	国内籍の私募投資信託
信託期間	2028年5月12日まで（2018年3月16日設定）
決算日	毎年5月12日（休業日の場合は翌営業日）
基本方針	この投資信託は、F T S E 世界国債インデックス（除く日本、円ヘッジ・円ベース）に連動する投資成果をめざして運用を行います。
投資対象	ヘッジ付外国債券インデックスマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、日本を除く世界各国の公社債に直接投資することがあります。
関係法人	委託会社：三菱UFJアセットマネジメント株式会社 受託会社：三菱UFJ信託銀行株式会社（再信託：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）
投資態度	ヘッジ付外国債券インデックスマザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を除く世界各国の公社債に投資を行います。 マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。 対象インデックスとの連動を維持するため、先物取引等を利用し公社債の実質投資比率が100%を超える場合があります。 実質組入外貨建資産については、原則として対象インデックスとの連動を維持するため為替ヘッジを行います。ただし、対象インデックスとの連動を維持するため、為替ヘッジ比率を引き下げる、あるいは為替ヘッジ比率を100%以上に引き上げる運用指図を行うことがあります。 市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。
投資制限等	株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。 有価証券先物取引等を行うことができます。 スワップ取引は効率的な運用に資するため行うことができます。 金利先渡取引および為替先渡取引は効率的な運用に資するため行うことができます。 外国為替予約取引は効率的な運用に資するため行うことができます。 デリバティブ取引（法人税法第61条の5に定めるものをいいます。）は、価格変動リスク、金利変動リスクおよび為替変動リスクを減じる目的ならびに投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。
運用管理費用（信託報酬）等	日々の純資産総額に対して、年率0.121%（税込）（年率0.11%（税抜））をかけた額とします。 消費税等相当額を含みます。なお、消費税率に応じて変更となる場合があります。

名称	マネー・プールファンド（FOFs用）（適格機関投資家限定）
形態等	国内籍の私募投資信託
信託期間	無期限（2010年11月24日設定）
決算日	毎年5月20日、11月20日（休業日の場合は翌営業日）
基本方針	この投資信託は、安定した収益の確保をめざして運用を行います。
投資対象	マネー・マーケット・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。 なお、わが国の公社債等に直接投資することがあります。
関係法人	委託会社：三菱UFJアセットマネジメント株式会社 受託会社：三菱UFJ信託銀行株式会社（再信託：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）
投資態度	マネー・マーケット・マザーファンド受益証券への投資を通じて、わが国の公社債等に実質的な投資を行い、利子等収益の確保を図ります。なお、わが国の公社債等に直接投資することがあります。 市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。
投資制限等	株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 外貨建資産への投資は行いません。 有価証券先物取引等を行うことができます。 スワップ取引は効率的な運用に資するため行うことができます。 金利先渡し取引は効率的な運用に資するため行うことができます。 デリバティブ取引（法人税法第61条の5に定めるものをいいます。）は、価格変動リスクおよび金利変動リスクを減じる目的ならびに投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。
運用管理費用（信託報酬）等	日々の純資産総額に対して、年率0.033%（税込）（年率0.03%（税抜））をかけた額とします。 消費税等相当額を含みます。なお、消費税率に応じて変更となることがあります。

< 指定投資信託証券の対象指数（ベンチマーク）について >

- ・「東証株価指数（TOPIX）（配当込み）」とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値およびTOPIXに係る標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用等TOPIXに関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIXに係る標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。
- ・「MSCIコクサイ・インデックス（配当込み）」とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）は、MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、米ドルベース）をもとに、三菱UFJアセットマネジメント株式会社が算出したものです。MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
- ・「NOMURA-BPI総合」とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- ・「NOMURA 物価連動国債インデックス（フロアあり）」とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本国が発行したフロアありの物価連動国債のパフォーマンスインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- ・「FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ヘッジ・円ベース）」とは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、

FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

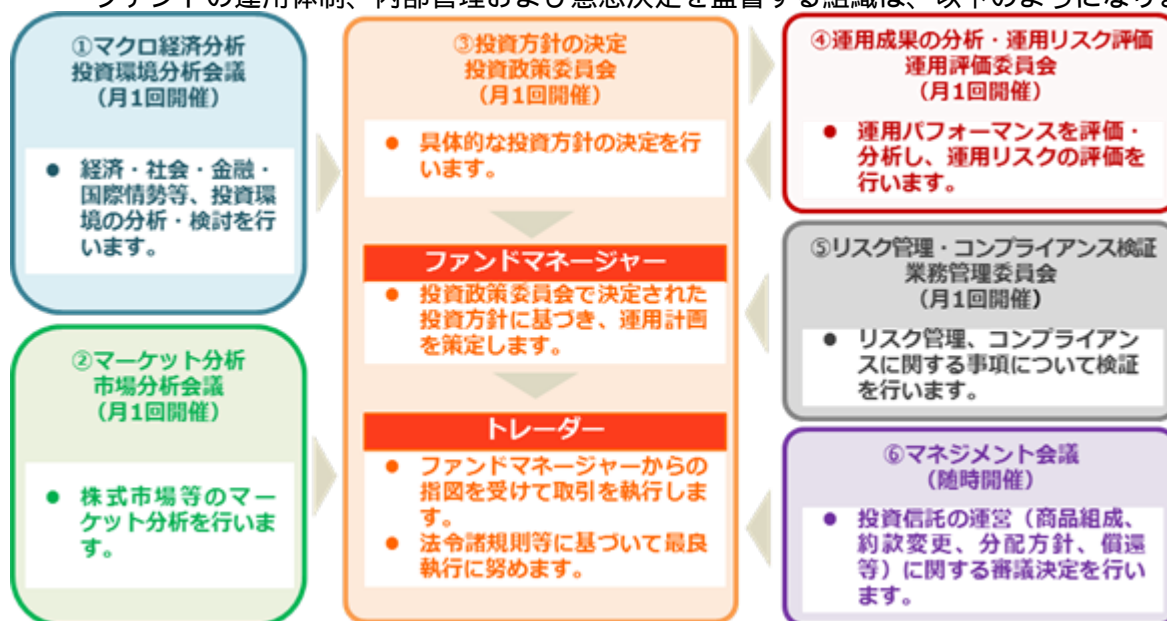
- ・「FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）」とは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

前記の内容は原則として、2023年11月末日時点の情報をもとに作成したものであり、今後、前記の記載内容が変更となる場合、指定投資信託証券の見直しに伴い、指定投資信託証券として選定されていた投資信託証券を選定対象から外したり、新たに投資信託証券（先進国資産配分コントロールファンド＜安定型＞（愛称：コア安定）、先進国資産配分コントロールファンド＜成長型＞（愛称：コア成長）設定以降に設定された投資信託証券も含みます。）を指定投資信託証券として選定する場合があります。

（３）【運用体制】

運用体制、内部管理および意思決定を監督する組織

ファンドの運用体制、内部管理および意思決定を監督する組織は、以下のようになります。



ファンドの関係法人（販売会社を除く）に対する管理体制等

「受託会社」または「再信託受託会社」に対しては、日々の基準価額および純資産照合、月次の勘定残高照合等を行っております。また、受託業務の内部統制の有効性についての監査人による報告書を、受託会社より受け取っております。

運用体制等につきましては、2023年11月末現在のものであり、変更になることがあります。

（４）【分配方針】

毎年４月23日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき収益分配を行います。

イ．分配対象収益の範囲

経費等控除後の繰越分を含めた配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。

ロ．分配対象収益についての分配方針

収益分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案のうえ決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わない場合があります。

八．留保益の運用方針

収益分配に充てなかった留保益については、運用の基本方針と同一の運用を行います。

収益分配金の交付

イ．分配金受取コースの場合、収益分配金は、決算日から起算して、原則として、5営業日までに販売会社を通じて支払いを開始します。

ロ．分配金再投資コースの場合、収益分配金は、税金を差し引いた後、決算日の基準価額で全額を申込手数料なしで再投資いたします。

お申込みになる販売会社によっては、どちらか一方のコースのみの取扱いとなります。

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金に係る決算日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該収益分配金に係る決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。）にお支払いします。また、分配金再投資コースの場合、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

分配方針に基づいて収益分配を行う予定ですが、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

（５）【投資制限】

株式への直接投資は行いません。

投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。

外貨建資産への直接投資は行いません。

同一銘柄の投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。

投資信託証券を通じて行う場合において、デリバティブ取引（法人税法第61条の５に定めるものをいいます。）は、価格変動、金利変動および為替変動により生じるリスクを減じる目的ならびに投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。

前各号の規定にかかわらず、一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に係る株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

資金の借入れ

イ．委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性をはかるため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

ロ．一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が５営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、有価証券等の解約代金および有価証券等の償還金の合計額を限度とします。

ハ．収益分配金の再投資にかかる借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は、収益分配金の再投資額を限度とします。

ニ．借入金の利息は、信託財産中より支弁します。

3【投資リスク】

当ファンドは、実質的に国内外の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではありません。投資信託は預貯金とは異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者のみなさまに帰属します。

投資リスク

イ．株価変動リスク

株式の価格は、国内および国際的な政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給関係等の影響を受け変動します。当ファンドが実質的に投資する株式の価格が下落した場合には、その影響を受け、基準価額が下落する要因となります。

ロ．金利変動リスク

債券の価格は、一般に金利が上昇した場合は下落します。金利は、金融・財政政策・市場の需給等の影響を受け変動します。当ファンドが実質的に投資する債券の価格が下落した場合には、その影響を受け、基準価額が下落する要因となります。

ハ．為替変動リスク

外貨建資産の価格については、当該外貨の円に対する為替相場の影響を受け変動します。当ファンドが実質的に保有する外貨建資産について、当該外貨の為替相場が円安方向に進んだ場合には当ファンドの基準価額が上昇する要因となり、円高方向に進んだ場合には下落する要因となります。また、実質的に保有する外貨建資産の一部について、為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図る場合がありますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

ニ．信用リスク（デフォルトリスク）

有価証券等の価格は、その発行体の倒産、財務状況又は信用状況の悪化、債務不履行等が発生または予想される場合には、その影響を受け変動します。当ファンドが実質的に保有する有価証券等の発行体にこうした状況が発生または予想される場合には、その影響を受け、基準価額が下落する要因となります。

ホ．流動性リスク

大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要性が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性があります。

へ．物価変動リスク

物価連動国債の価格は、金利変動等のほか物価変動の影響を受け変動します。一般に、物価が下落した場合あるいは物価の下落が見込まれる場合には、物価連動国債の価格は下落します。当ファンドが実質的に投資する物価連動国債の価格が下落した場合には、その影響を受け、基準価額が下落する要因となります。

基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

留意事項

- イ．当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ロ．投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、販売会社が登録金融機関の場合、証券会社とは異なり、投資者保護基金に加入しておりません。
- ハ．分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間における当ファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部ないしすべてが、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- ニ．取引所における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、解約請求の受付を中止することや、すでに受付けた解約請求の受付を取消することがあります。

投資リスクに対する管理体制

- イ．投資政策委員会において、運用に関する内規の作成のほか、投資方針の決定を行います。
- ロ．コンプライアンス部は、信託財産の運用の指図につき法令、一般社団法人投資信託協会諸規則、社内規程および投資信託約款等（以下、「法令諸規則等」という。）に定める運用の指図に関する事項の遵守状況を確認します。
 - コンプライアンス部は、原則として日々、次に掲げる方法による検証を行います。
 - a．運用の指図に関する帳票の確認
 - b．検証システムにより抽出される運用の実施状況に関するデータの確認
 - c．その他検証を行うために必要な行為
- ハ．運用評価委員会においてファンドの運用パフォーマンスの分析・検証・評価、ファンドの組入有価証券の評価損率や、有価証券売買状況、組入状況の報告等により、全社的に投資リスクを把握し管理を行います。
- ニ．流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリング等を実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証等を行います。また、取締役会等において、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について監督します。

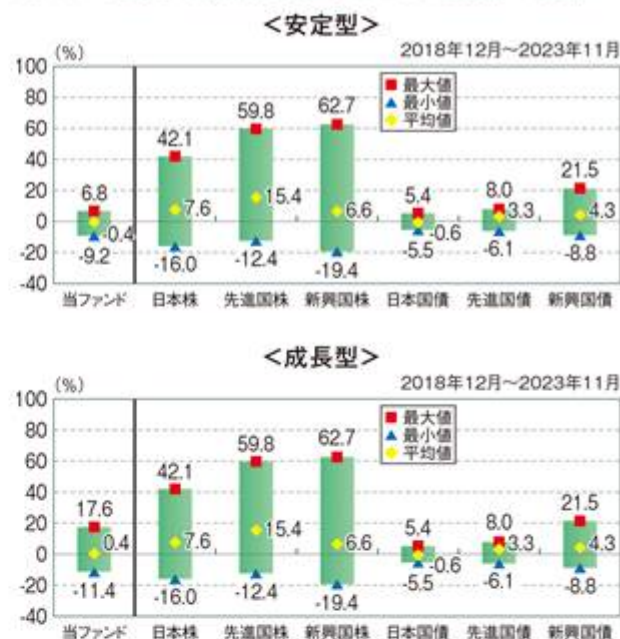
参考情報

当ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移



※分配金再投資基準価額は、2018年12月末から2023年11月末です。
 ※年間騰落率(各月末における直近1年間の騰落率)は、税引前の分配金を再投資したものと仮定して計算したものであり、実際の基準価額をもとに計算したものと異なる場合があります。
 ※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものと仮定して計算したものであり、実際の基準価額とは異なる場合があります。分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。

当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※グラフは、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。
 ※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
 ※上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
 ※上記資産クラスの騰落率は2023年11月から60ヶ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。
 ※当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

●代表的な資産クラスの指数

日本株	東証株価指数(TOPIX) (配当込み) 株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社が算出・公表する、日本の株式を対象とした指数で、配当を考慮したものです。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。
日本国債	NOMURA-BPI国債 野村フィデュシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCが開発した指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	JPMorgan・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース) J.P. Morgan Securities LLCが算出・公表する指数で、世界の新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

申込手数料はありません。

「分配金再投資コース」の取得申込者が、収益分配金の再投資によりファンドを買付ける場合、申込手数料はかかりません。詳細につきましては、販売会社または委託会社にお問い合わせください。

お問い合わせ先

中銀アセットマネジメント株式会社

サポートダイヤル 086-224-5310

<受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

インターネットホームページ <https://www.chugin-am.jp/>

(2)【換金（解約）手数料】

換金（解約）手数料はありません。

(3)【信託報酬等】

信託報酬の総額およびその配分

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に次に掲げる率を乗じて得た額とします。

	信託報酬率
<安定型>	年率1.067%（税込）（年率 0.97%（税抜））
<成長型>	年率1.342%（税込）（年率 1.22%（税抜））

1万口当たりの信託報酬：

運用期間中の平均基準価額×信託報酬率×（保有日数／365）

上記の計算方法は簡便法であるため、算出された値は概算値になります。

信託報酬は、「委託会社」、「販売会社」および「受託会社」の間で次のように配分します。

支払先	配分（税抜）		役務の内容
	< 安定型 >	< 成長型 >	
委託会社	0.44%	0.55%	ファンドの運用、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
販売会社	0.50%	0.64%	分配金・償還金・換金代金支払等の事務手続き、交付運用報告書等の送付、購入後の説明・情報提供等の対価
受託会社	0.03%	0.03%	信託財産の保管・管理、運用指図の実行等の対価

上記信託報酬には、別途消費税等相当額がかかります。なお、委託会社の信託報酬には、投資顧問会社への投資顧問報酬が含まれます。

前記の他に各ファンドが投資対象とする指定投資信託証券に関しても信託（管理）報酬等がかかります。

受益者が負担する実質的な信託報酬率は、各ファンドの純資産総額に対して、次に掲げる率を乗じて得た金額となります。

	信託報酬率
安定型	最大年率1.210%（税込）程度 （最大年率1.10%（税抜）程度）
成長型	最大年率1.496%（税込）程度 （最大年率1.36%（税抜）程度）

上記は、各ファンドの信託報酬率と、投資対象とする投資信託証券の信託報酬率をあわせたものです。この値はあくまでも目安であり、ファンドの実際の投資信託証券の組入状況により変動します。

信託報酬の支払い時期

毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき、信託財産中から支弁します。

（４）【その他の手数料等】

信託財産留保額はありません。

ファンドの財務諸表の監査費用は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年率0.0055%（税抜0.005%）を乗じて得た額とし、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき、信託財産中から支弁します。

ファンドの解約に伴う支払資金の手当て又は再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的とした借入金の利息は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

ファンドの信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

上記の他、投資信託約款の規定に基づく運用指図等により生じた費用をご負担いただく場合があります。また、その他の手数料等につきましては、財務諸表の監査費用を除き、運用状況、保有期間等により変動するものであり、事前に金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。

費用または費用を対価とする役務の内容について

費用名	直接・間接	説明
申込手数料	直接	商品および投資環境の説明・情報提供、購入に関する事務手続等の対価
信託財産留保額	直接	信託期間の途中で換金する場合に、換金に必要な費用を賄うため換金代金から控除され、信託財産中に留保される額

信託報酬	間接	（委託会社） ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価 （販売会社） 分配金・償還金・換金代金支払等の事務手続き、交付運用報告書等の送付、購入後の説明・情報提供等の対価 （受託会社） 信託財産の保管・管理、運用指図の実行等の対価
売買委託手数料	間接	有価証券等を売買する際に発生する費用
監査報酬	間接	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用

上記は一般的な用語について説明したものです。

受益者が直接的に負担する費用か、間接的に負担する費用かの区別です。

（５）【課税上の取扱い】

ファンドは、課税上、株式投資信託として取扱われます。

個人受益者に対する課税

イ．収益分配時

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収が行われ、申告不要制度が適用されます。確定申告による総合課税または申告分離課税の選択も可能です。

ロ．一部解約時および償還時

一部解約時および償還時の譲渡益については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率による申告分離課税が適用されます。ただし、特定口座（源泉徴収選択口座）の利用も可能です。なお、一部解約時および償還時の損失については、確定申告により、収益分配金、上場株式等に係る譲渡益との損益通算が可能です。

公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。

当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

NISAをご利用の場合、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。他の口座で生じた配当所得・譲渡所得との損益通算はできません。

ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした商品を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

法人受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、15.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%）の税率で源泉徴収されます。

収益分配金について

受益者が収益分配金を受け取る際、基準価額（分配落）が受益者の個別元本と同額の場合または上回っている場合には、分配金の全額が普通分配金となります。

受益者が収益分配金を受け取る際、基準価額（分配落）が受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、分配金から元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。元本払戻金（特別分配金）は、元本の一部払戻しに相当し、非課税扱いとなります。

個別元本とは

個別元本とは、原則として、受益者毎の信託時の受益権の価額（申込手数料および申込手数料に係る消費税等相当額は含まれません。）をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均されます。ただし、複数の販売会社でファンドを買付けた場合は、販売会社毎に個別元本の算出が行われます。

また、同一販売会社であっても、複数口座でファンドを買付けた場合には口座ごとに、「分配金受取コース」と「分配金再投資コース」の両コースでファンドを買付けた場合にはコースごとに、個別元本の算出が行われる場合があります。

受益者が、元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、個別元本は、分配金発生時の個別元本から元本払戻金（特別分配金）を控除した額となります。

その他

イ．益金不算入制度、配当控除の適用はありません。（税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めいたします。）

ロ．買取請求による換金の場合の課税上の取扱いおよび損益通算等につきましては、取得申込みを取扱った販売会社にお問い合わせください。

外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

上記の内容は2023年11月末現在の税法に基づくものであり、税法が改正された場合等には変更になることがあります。

5【運用状況】

【先進国資産配分コントロールファンド 安定型】

(1)【投資状況】

2023年11月30日現在

資産の種類	国 / 地域	時価合計（円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	日本	2,337,718,289	98.21
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	—	42,719,014	1.79
合計(純資産総額)		2,380,437,303	100.00

(注)投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

イ．評価額上位銘柄明細

2023年11月30日現在

順位	国 / 地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	投資信託 受益証券	MUKAM日本債券インデックスファンド2 (適格機関投資家限定)	859,029,944	0.9717	834,719,396	0.957	822,091,656	34.54
2	日本	投資信託 受益証券	MUKAMヘッジ付外国債券インデックス ファンド2(適格機関投資家限定)	516,938,179	0.902	466,278,237	0.8748	452,217,518	19.00
3	日本	投資信託 受益証券	国内物価連動国債インデックスファンド (適格機関投資家限定)	328,003,405	1.0311	338,204,310	1.0689	350,602,839	14.73
4	日本	投資信託 受益証券	MUAMインデックスファンドTOPIXi (適格機関投資家限定)	136,040,718	1.7926	243,866,591	2.0814	283,155,150	11.90
5	日本	投資信託 受益証券	MUKAM外国株式インデックスファンド2 (適格機関投資家限定)	125,733,310	1.8802	236,403,769	2.2234	279,555,441	11.74
6	日本	投資信託 受益証券	MUKAM外国債券インデックスファンド2 (適格機関投資家限定)	119,170,850	1.15	137,046,477	1.2595	150,095,685	6.31

(注)投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

□．種類別投資比率

2023年11月30日現在

種類	投資比率（％）
投資信託受益証券	98.21
合計	98.21

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（３）【運用実績】

【純資産の推移】

2023年11月30日及び同日１年以内における各月末ならびに下記決算期末の純資産の推移は次の通りです。

期別	純資産総額（円）		１口当たり純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第１計算期間末（2017年４月24日）	2,839,784,204	2,839,784,204	0.9915	0.9915
第２計算期間末（2018年４月23日）	3,850,966,773	3,850,966,773	1.0153	1.0153
第３計算期間末（2019年４月23日）	6,609,482,703	6,609,482,703	1.0150	1.0150
第４計算期間末（2020年４月23日）	6,651,365,645	6,651,365,645	0.9960	0.9960
第５計算期間末（2021年４月23日）	4,604,547,265	4,604,547,265	1.0329	1.0329
第６計算期間末（2022年４月25日）	2,806,105,535	2,806,105,535	1.0148	1.0148
第７計算期間末（2023年４月24日）	2,727,515,396	2,727,515,396	0.9855	0.9855
2022年11月末日	2,744,730,825	—	0.9872	—
12月末日	2,663,862,308	—	0.9631	—
2023年１月末日	2,683,685,082	—	0.9717	—
２月末日	2,696,007,699	—	0.9733	—
３月末日	2,728,619,559	—	0.9838	—
４月末日	2,737,526,164	—	0.9869	—
５月末日	2,755,748,353	—	1.0020	—
６月末日	2,739,051,991	—	1.0229	—
７月末日	2,506,656,810	—	1.0175	—
８月末日	2,471,675,848	—	1.0149	—
９月末日	2,424,344,946	—	1.0060	—
10月末日	2,369,047,732	—	0.9895	—
11月末日	2,380,437,303	—	1.0207	—

【分配の推移】

期	計算期間	１口当たりの分配金（円）
第１計算期間末	2016年４月28日～2017年４月24日	0.0000
第２計算期間末	2017年４月25日～2018年４月23日	0.0000
第３計算期間末	2018年４月24日～2019年４月23日	0.0000
第４計算期間末	2019年４月24日～2020年４月23日	0.0000
第５計算期間末	2020年４月24日～2021年４月23日	0.0000
第６計算期間末	2021年４月24日～2022年４月25日	0.0000
第７計算期間末	2022年４月26日～2023年４月24日	0.0000

【収益率の推移】

期	計算期間	収益率（％）
第１計算期間末	2016年４月28日～2017年４月24日	0.9
第２計算期間末	2017年４月25日～2018年４月23日	2.4
第３計算期間末	2018年４月24日～2019年４月23日	0.0
第４計算期間末	2019年４月24日～2020年４月23日	1.9
第５計算期間末	2020年４月24日～2021年４月23日	3.7
第６計算期間末	2021年４月24日～2022年４月25日	1.8
第７計算期間末	2022年４月26日～2023年４月24日	2.9
第８中間計算期間末	2023年４月25日～2023年10月24日	0.6

(注)「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ちの額。以下「前期末基準価額」）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に

100を乗じた数です。なお、第1計算期間については、直前の計算期間の基準価額を10,000円として計算しています。

(4) 【設定及び解約の実績】

期	計算期間	設定口数(口)	解約口数(口)	発行済み口数(口)
第1計算期間末	2016年4月28日～2017年4月24日	3,312,714,449	448,568,792	2,864,145,657
第2計算期間末	2017年4月25日～2018年4月23日	2,093,136,843	1,164,407,616	3,792,874,884
第3計算期間末	2018年4月24日～2019年4月23日	4,306,074,844	1,587,102,954	6,511,846,774
第4計算期間末	2019年4月24日～2020年4月23日	4,528,770,053	4,362,230,114	6,678,386,713
第5計算期間末	2020年4月24日～2021年4月23日	945,813,004	3,166,197,402	4,458,002,315
第6計算期間末	2021年4月24日～2022年4月25日	590,669,429	2,283,578,910	2,765,092,834
第7計算期間末	2022年4月26日～2023年4月24日	321,673,441	319,188,064	2,767,578,211
第8中間計算期間末	2023年4月25日～2023年10月24日	97,913,870	473,875,486	2,391,616,595

(注)第1計算期間の設定口数には当初募集期間中の設定口数を含みます。

【先進国資産配分コントロールファンド 成長型】

(1) 【投資状況】

2023年11月30日現在

資産の種類	国 / 地域	時価合計（円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	日本	754,553,370	89.37
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	—	89,772,573	10.63
合計(純資産総額)		844,325,943	100.00

(注)投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(2) 【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

イ．評価額上位銘柄明細

2023年11月30日現在

順位	国 / 地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	投資信託 受益証券	MUAMインデックスファンドTOPIX i (適格機関投資家限定)	122,497,167	1.9449	238,246,945	2.0814	254,965,603	30.20
2	日本	投資信託 受益証券	MUKAM外国株式インデックスファンド2 (適格機関投資家限定)	113,999,497	2.074	236,438,148	2.2234	253,466,481	30.02
3	日本	投資信託 受益証券	MUKAMヘッジ付外国債券インデックス ファンド2 (適格機関投資家限定)	205,100,355	0.8785	180,181,687	0.8748	179,421,790	21.25
4	日本	投資信託 受益証券	MUKAM外国債券インデックスファンド2 (適格機関投資家限定)	30,651,267	1.1922	36,544,678	1.2595	38,605,270	4.57
5	日本	投資信託 受益証券	MUKAM日本債券インデックスファンド2 (適格機関投資家限定)	21,809,068	0.9406	20,515,768	0.957	20,871,278	2.47
6	日本	投資信託 受益証券	国内物価連動国債インデックスファンド (適格機関投資家限定)	6,757,366	1.0536	7,120,229	1.0689	7,222,948	0.86

(注)投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

ロ．種類別投資比率

2023年11月30日現在

種類	投資比率（％）
投資信託受益証券	89.37
合計	89.37

(注)投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

2023年11月30日及び同日 1 年以内における各月末ならびに下記決算期末の純資産の推移は次の通りです。

期別	純資産総額（円）		1口当たり純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第 1 計算期間末（2017年 4 月24日）	1,473,620,919	1,473,620,919	1.0103	1.0103
第 2 計算期間末（2018年 4 月23日）	2,630,002,310	2,630,002,310	1.1047	1.1047
第 3 計算期間末（2019年 4 月23日）	3,199,199,273	3,199,199,273	1.0939	1.0939
第 4 計算期間末（2020年 4 月23日）	2,161,786,036	2,161,786,036	1.0434	1.0434
第 5 計算期間末（2021年 4 月23日）	1,356,551,098	1,356,551,098	1.1392	1.1392
第 6 計算期間末（2022年 4 月25日）	1,211,500,090	1,211,500,090	1.1581	1.1581
第 7 計算期間末（2023年 4 月24日）	1,046,815,614	1,046,815,614	1.1016	1.1016
2022年11月末日	1,151,634,425	—	1.1178	—
12月末日	1,120,630,879	—	1.0849	—
2023年 1 月末日	1,140,028,591	—	1.0954	—
2 月末日	1,045,259,090	—	1.0968	—
3 月末日	1,039,367,998	—	1.0944	—
4 月末日	1,049,407,699	—	1.1013	—
5 月末日	1,059,258,576	—	1.1222	—
6 月末日	1,086,322,124	—	1.1596	—
7 月末日	1,030,005,532	—	1.1582	—
8 月末日	1,014,687,205	—	1.1654	—
9 月末日	934,487,855	—	1.1568	—
10月末日	870,742,045	—	1.1149	—
11月末日	844,325,943	—	1.1673	—

【分配の推移】

期	計算期間	1口当たりの分配金（円）
第1計算期間末	2016年4月28日～2017年4月24日	0.0000
第2計算期間末	2017年4月25日～2018年4月23日	0.0000
第3計算期間末	2018年4月24日～2019年4月23日	0.0000
第4計算期間末	2019年4月24日～2020年4月23日	0.0000
第5計算期間末	2020年4月24日～2021年4月23日	0.0000
第6計算期間末	2021年4月24日～2022年4月25日	0.0000
第7計算期間末	2022年4月26日～2023年4月24日	0.0000

【収益率の推移】

期	計算期間	収益率（％）
第1計算期間末	2016年4月28日～2017年4月24日	1.0
第2計算期間末	2017年4月25日～2018年4月23日	9.3
第3計算期間末	2018年4月24日～2019年4月23日	1.0
第4計算期間末	2019年4月24日～2020年4月23日	4.6
第5計算期間末	2020年4月24日～2021年4月23日	9.2
第6計算期間末	2021年4月24日～2022年4月25日	1.7
第7計算期間末	2022年4月26日～2023年4月24日	4.9
第8中間計算期間末	2023年4月25日～2023年10月24日	1.7

(注)「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ちの額。以下「前期末基準価額」）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。なお、第1計算期間については、直前の計算期間の基準価額を10,000円として計算しています。

(4) 【設定及び解約の実績】

期	計算期間	設定口数（口）	解約口数（口）	発行済み口数（口）
第1計算期間末	2016年4月28日～2017年4月24日	1,519,392,073	60,833,813	1,458,558,260
第2計算期間末	2017年4月25日～2018年4月23日	1,320,675,672	398,417,992	2,380,815,940
第3計算期間末	2018年4月24日～2019年4月23日	895,155,061	351,298,653	2,924,672,348
第4計算期間末	2019年4月24日～2020年4月23日	741,639,471	1,594,387,452	2,071,924,367
第5計算期間末	2020年4月24日～2021年4月23日	461,632,094	1,342,742,273	1,190,814,188
第6計算期間末	2021年4月24日～2022年4月25日	328,926,088	473,592,466	1,046,147,810
第7計算期間末	2022年4月26日～2023年4月24日	107,745,262	203,581,977	950,311,095
第8中間計算期間末	2023年4月25日～2023年10月24日	47,020,035	215,966,360	781,364,770

(注)第1計算期間の設定口数には当初募集期間中の設定口数を含みます。

参考情報

<安定型>

2023年11月30日現在

基準価額・純資産の推移



※基準価額は1万円当たり、信託報酬等を控除後の値です。

※2023年11月30日時点では分配がありませんので、分配金再投資基準価額は表示しておりません。

分配の推移

2019年	4月	0円
2020年	4月	0円
2021年	4月	0円
2022年	4月	0円
2023年	4月	0円
設定来累計		0円

※分配金は1万円当たり、税引前です。

主要な資産の状況

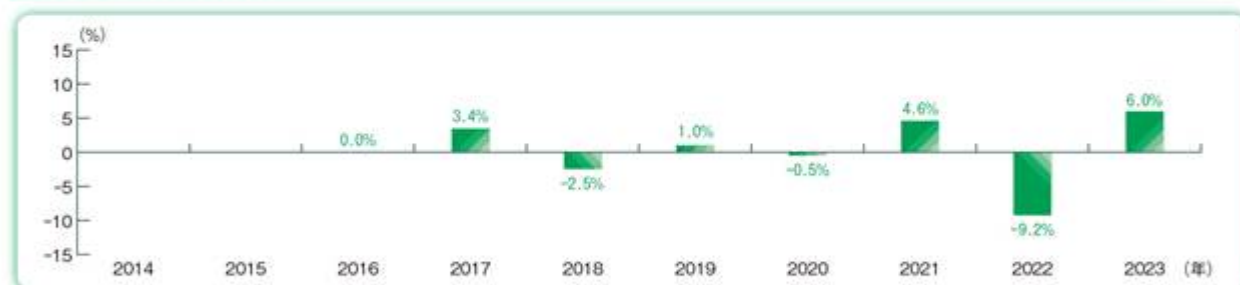
資産構成	比率
MUKAM日本債券インデックスファンド2(適格機関投資家限定)	34.5%
MUKAMヘッジ付外国債券インデックスファンド2(適格機関投資家限定)	19.0%
国内物価連動国債インデックスファンド(適格機関投資家限定)	14.7%
MUAMインデックスファンドTOPIXi(適格機関投資家限定)	11.9%
MUKAM外国株式インデックスファンド2(適格機関投資家限定)	11.7%
MUKAM外国債券インデックスファンド2(適格機関投資家限定)	6.3%
コール・ローン、その他	1.8%
合計	100.0%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

※主要な資産の状況の各組入比率は四捨五入して表示しておりますので、それを用いて計算すると誤差を生じることがあります。

※コール・ローン、その他には未収・未払い項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。

年間収益率の推移



※当ファンドにはベンチマークはありません。

※当ファンドの収益率は基準価額で計算しております。

※2016年は当ファンド設定日から年末までの収益率を表示しております。

※2023年の収益率は年初から2023年11月30日までの収益率を表示しております。

掲載データ等はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。
 ファンドの運用状況等は別途、委託会社のホームページで開示しております。

2023年11月30日現在

<成長型>

基準価額・純資産の推移



※基準価額は1万口当たり、信託報酬等を控除後の値です。

※2023年11月30日時点では分配がありませんので、分配金再投資基準価額は表示しておりません。

分配の推移

2019年 4月	0円
2020年 4月	0円
2021年 4月	0円
2022年 4月	0円
2023年 4月	0円
設定来累計	0円

※分配金は1万口当たり、税引前です。

主要な資産の状況

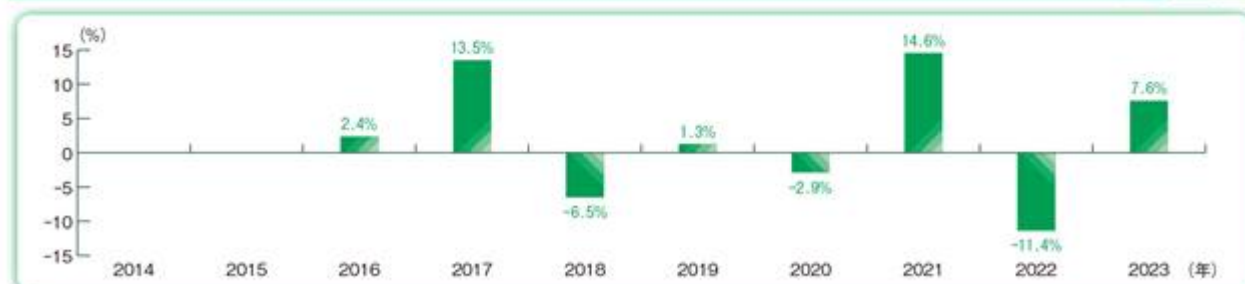
資産構成	比率
MUAMインデックスファンドTOPIXi（適格機関投資家限定）	30.2%
MUKAM外国株式インデックスファンド2（適格機関投資家限定）	30.0%
MUKAMヘッジ付外国債券インデックスファンド2（適格機関投資家限定）	21.3%
MUKAM外国債券インデックスファンド2（適格機関投資家限定）	4.6%
MUKAM日本債券インデックスファンド2（適格機関投資家限定）	2.5%
国内物価連動国債インデックスファンド（適格機関投資家限定）	0.9%
コール・ローン、その他	10.6%
合計	100.0%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

※主要な資産の状況の各組入比率は四捨五入して表示しておりますので、それを用いて計算すると誤差を生じることがあります。

※コール・ローン、その他には未収・未払い項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。

年間収益率の推移



※当ファンドにはベンチマークはありません。

※当ファンドの収益率は基準価額で計算しております。

※2016年は当ファンド設定日から年末までの収益率を表示しております。

※2023年の収益率は年年初から2023年11月30日までの収益率を表示しております。

掲載データ等はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。
 ファンドの運用状況等は別途、委託会社のホームページで開示しております。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

（1）申込方法

お申込みに際しては、販売会社所定の方法でお申込みください。

当ファンドは、収益の分配が行われた場合に収益分配金を受領する「分配金受取コース」と、収益分配金を申込手数料なしで再投資する「分配金再投資コース」がありますが、お申込みになる販売会社によっては、どちらか一方のコースのみの取扱いとなります。「分配金再投資コース」を取得申込者が選択した場合には、取得申込者は販売会社との間で「累積投資に関する契約」にしたがって分配金再投資に関する契約を締結します。なお、販売会社によっては、当該契約または規定については、同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定を使用することがあり、この場合当該別の名称に読み替えるものとします。また、あらかじめ決められた一定の金額を一定期間毎に定時定額購入（積立）をすることができる場合があります。

当ファンドのお申込みは、原則として販売会社の毎営業日に行われます。お申込みの受付は、原則として午後3時までにお申込みが行われ、かつ、お申込みの受付に係る販売会社の所定の事務手続きが完了したものを当日のお申込みとします。

次のいずれかに該当する日（以下「申込不可日」といいます。）には、取得の申込みはできません。（申込不可日は、販売会社または委託会社において確認することができます。）

- ・ニューヨーク証券取引所の休業日
- ・ニューヨークの銀行の休業日
- ・ロンドン証券取引所の休業日
- ・ロンドンの銀行の休業日

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、お申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けたお申込みの受付を取り消すことができるものとします。

受益権の取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたは予め、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

（２）申込価額

お申込価額（発行価格）は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額 とします。

「分配金再投資コース」により収益分配金を再投資する場合は、各計算期間終了日の基準価額とします。

「基準価額」とは、純資産総額（ファンドの資産総額から負債総額を控除した金額）を計算日の受益権総口数で除した価額をいいます。なお、基準価額は、便宜上１万口当たりで表示することがあります。

申込代金は、１口当たりのお申込価額に申込口数を乗じて得た金額とします。

（３）申込手数料

申込手数料はありません。

「分配金再投資コース」の取得申込者が、「累積投資に関する契約」（販売会社によっては、当該契約または規定については、同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定を使用することがあり、この場合当該別の名称に読み替えるものとします。）に基づき、収益分配金の再投資によりファンドを買い付ける場合にも、申込手数料はかかりません。

（４）申込単位

お申込単位は、販売会社が定める単位とします。

「分配金受取コース」および「分配金再投資コース」によるお申込みが可能です。

お申込みになる販売会社によっては、どちらか一方のコースのみの取扱いとなります。

取扱コースおよびお申込単位は、販売会社にお問い合わせください。

「分配金再投資コース」により、収益分配金を再投資する場合は、１口単位となります。

（５）払込期日

取得申込者は、お申込みをされた販売会社が定める所定の日時までに買付代金を販売会社に支払うものとします。各取得申込日の発行価額の総額は、販売会社によって、追加信託が行われる日に、委託会社の指定する口座を経由して受託会社の指定するファンド口座（受託会社が信託事務の一部について委託を行っている場合は当該委託先の口座）に払込まれます。

（６）照会先

基準価額は、委託会社の毎営業日において、委託会社により計算され、販売会社または委託会社にお問い合わせいただくことにより知ることができます。

詳細につきましては、販売会社または委託会社にお問い合わせください。

お問い合わせ先

中銀アセットマネジメント株式会社

サポートダイヤル 086-224-5310

< 受付時間 > 営業日の午前 9 時～午後 5 時

インターネットホームページ <https://www.chugin-am.jp/>

２【換金（解約）手続等】

（１）換金（解約）手続き

受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に対し、各販売会社の定める単位をもって換金（解約）の請求をすることができます。受益者が換金の請求をするときは、販売会社に対し、受益権をもって行うものとします。委託会社は、換金の請求を受付けた場合には、この信託契約の一部を解約します。換金のお申込みの受付は、原則として販売会社の毎営業日の午後 3 時までに換金の請求が行われ、かつ、換金の受付に係る販売会社の所定の事務手続きが完了したものを当日のお申込みとします。また、信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求に制限を設ける場合があります。

換金の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

換金の請求を受益者がするときは、振替受益権をもって行うものとします。

申込不可日には、換金の請求はできません。（申込不可日は、販売会社または委託会社において確認することができます。）

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、換金の受付を中止すること、およびすでに受付けた換金の請求を取り消すことができます。換金の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の換金の請求を撤回できます。ただし、受益者がその換金の請求を撤回しない場合には、当該受益権の解約価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に換金の請求を受付けたものとします。

（２）換金価額

換金価額は、換金請求受付日の翌営業日の基準価額とします。

（３）換金手数料

換金手数料はありません。

（４）換金代金の支払い

換金代金は、原則として換金請求受付日より起算して８営業日目から販売会社において支払います。

（５）照会先

換金価額は、委託会社の毎営業日において、委託会社により計算され、販売会社または委託会社にお問い合わせいただくことにより知ることができます。

詳細につきましては、販売会社または委託会社にお問い合わせください。

お問い合わせ先

中銀アセットマネジメント株式会社

サポートダイヤル 086-224-5310

< 受付時間 > 営業日の午前９時～午後５時

インターネットホームページ <https://www.chugin-am.jp/>

3【資産管理等の概要】

（１）【資産の評価】

基準価額の計算方法

基準価額は、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価または償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下、「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権口数で除した金額をいいます。なお、基準価額は、便宜上１万口当たりで表示されることがあります。

ファンドの主な投資対象の評価方法

ファンドが主要投資対象とする投資信託証券は、原則として、計算日に知りうる直近の日の基準価額で評価します。

基準価額の算出頻度

委託会社の毎営業日において計算されます。

基準価額に関する照会方法等

基準価額は、委託会社の毎営業日において、委託会社により計算され、販売会社または委託会社にお問い合わせいただくことにより知ることができます。

お問い合わせ先

中銀アセットマネジメント株式会社

サポートダイヤル 086-224-5310

< 受付時間 > 営業日の午前９時～午後５時

インターネットホームページ <https://www.chugin-am.jp/>

基準価額は、計算日の翌日付の日本経済新聞に１万口当たりで掲載されます。掲載に関する権利は株式会社日本経済新聞社にあり、掲載されない場合もあります。また、基準価額は、掲載後変更される場合がありますので、販売会社または委託会社で確認してください。

委託会社の略称：中銀アセット

各ファンドの略称：

先進国資産配分コントロールファンド<安定型>（愛称：コア安定）：「コア安定」

先進国資産配分コントロールファンド<成長型>（愛称：コア成長）：「コア成長」

（２）【保管】

該当事項はありません。

（３）【信託期間】

信託期間は、2016年４月28日から無期限とします。ただし、信託契約の解約（繰上償還）の規定により信託を終了させる場合があります。

（４）【計算期間】

計算期間は、原則として、毎年４月24日から翌年４月23日までとします。ただし、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

(5) 【その他】

信託契約の解約（繰上償還）

- イ．委託会社は、信託期間中において、この信託を終了させることが受益者のため有利であると認めるとき、信託契約の一部を解約することにより受益権口数が10億口を下回ったとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届出ます。
- ロ．委託会社は、イの事項について、書面による決議（以下「書面決議」といいます。）を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託契約に係る知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
- ハ．ロの書面決議において、受益者（委託会社およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託会社を除きます。以下同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- ニ．ロの書面決議は議決権を行行使することができる受益者の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行います。
- ホ．ロから二までの規定は、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この信託契約に係るすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であってロから二までの手続きを行うことが困難な場合には適用しません。

信託契約に関する監督官庁の命令

- イ．委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し、信託を終了させます。
- ロ．委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、信託約款の変更等の規定にしたがいます。

委託会社の登録取消等に伴う取扱い

- イ．委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。
- ロ．イの規定にかかわらず、監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、この信託は、信託約款の変更等の書面決議で否決された場合を除き、当該他の投資信託委託会社と受託会社の間において存続します。

委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

- イ．委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。
- ロ．委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

受託会社の辞任および解任に伴う取扱い

- イ．受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社がその任務に違反して信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を申立てることができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、信託約款の変更等の規定にしたがい、新受託会社を選任します。なお、受益者は、前記によって行う場合を除き、受託会社を解任することはできないものとします。
- ロ．委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

信託約款の変更等

- イ．委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。）を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、この信託約款は、この信託約款の変更等に定める以外の方法によって変更することができないものとし、
- ロ．委託会社は、イの事項（イの変更事項にあっては、その内容が重大なものに該当する場合に限り、イの併合事項にあっては、その併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除きます。以下「重大な約款の変更等」といいます。）について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託約款に係る知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発します。

- ハ．口の書面決議において、受益者（委託会社およびこの信託の信託財産にファンドの受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託会社を除きます。以下同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- ニ．口の書面決議は議決権を行行使することができる受益者の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行います。
- ホ．書面決議の効力は、ファンドのすべての受益者に対してその効力を生じます。
- ヘ．口からホまでの規定は、委託会社が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、この信託約款に係るすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。
- ト．イからヘまでの規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合にあっても、当該併合に係る一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

反対受益者の受益権買取請求の不適用

ファンドは、受益者が一部解約の請求を行ったときは、委託会社が信託契約の一部の解約をすることにより当該請求に応じ、当該受益権の公正な価格が当該受益者に一部解約金として支払われることとなる委託者指図型投資信託に該当するため、信託契約の解約（繰上償還）または重大な信託約款の変更等を行う場合において、投資信託及び投資法人に関する法律第18条第1項に定める反対受益者による受益権買取請求の規定の適用を受けません。

他の受益者の氏名等の開示の請求の制限

受益者は、委託会社または受託会社に対し、「他の受益者の氏名または名称および住所」、「他の受益者が有する受益権の内容」の開示の請求を行うことはできません。

運用報告書の交付

委託会社は、毎計算期間（原則として、毎年4月24日から翌年4月23日までとします。）終了後および償還時に、期中の運用経過等を記載した交付運用報告書を作成し、知れている受益者に、販売会社を通じて交付します。

運用報告書（全体版）は、委託会社のホームページに掲載します。ただし、受益者から運用報告書（全体版）の請求があった場合には、これを交付します。

<https://www.chugin-am.jp/>

公告

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<https://www.chugin-am.jp/>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

信託事務の再信託

受託会社は、ファンドに係る信託事務の処理の一部について日本マスタートラスト信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することができます。この場合、日本マスタートラスト信託銀行株式会社は、再信託契約に基づいて所定の事務を行います。

関係法人との契約の更改等に関する手続等

イ．投資顧問会社との契約更改

委託会社は、投資顧問会社との間の「投資顧問契約書」に基づき、運用に係る情報提供、助言を受けています。

この契約の有効期間は、契約締結日から1年で、期間満了の3ヵ月前までに委託会社または販売会社から別段の申し出が無いときは自動的に1年間更新され、その後も同様とします。

ロ．販売会社との契約更改

委託会社は、販売会社との間の「投資信託受益権の取扱いに関する契約（別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約を含みます。）」に基づき、受益権の募集の取扱い等を販売会社に委託しています。

この契約の有効期間は、契約締結日から１年で、期間満了の３ヵ月前までに委託会社または販売会社から別段の申し出が無いときは自動的に１年間更新され、その後も同様とします。

ハ．変更内容の開示

販売会社との契約または信託約款を変更した場合において、委託会社に変更内容について速やかに開示する必要があると認めるときは、有価証券届出書の訂正届出書を関東財務局長に提出することにより、変更内容を開示します。

４【受益者の権利等】

（１）ファンドの受益権

受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。

受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません。

（２）収益分配金に対する請求権

受益者は、ファンドに係る収益分配金を持分に応じて請求する権利を有します。

収益分配金は、計算期間終了日から起算して、原則として、５営業日までに販売会社を通じて受益者に支払いを開始します。

の規定にかかわらず、累積投資契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、原則として、毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金が販売会社に交付されます。販売会社は、受益者に対し、計算期間終了日の基準価額をもって収益分配金の再投資に係る受益権の売付を行います。

受益者が、収益分配金について支払い開始日から５年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金に係る決算日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該収益分配金に係る決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としします。）にお支払いします。また、分配金再投資コースの場合、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

（３）償還金に対する請求権

受益者は、ファンドに係る償還金を持分に応じて請求する権利を有します。

償還金は、償還日（償還日が休業日の場合は翌営業日）から起算して、原則として、５営業日までに販売会社を通じて受益者に支払いを開始します。

受益者が、償還金について支払開始日から１０年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としします。）にお支払いします。

（４）換金に係る権利

受益者は、委託会社に対して、換金（解約）請求を行う権利を有します。

（５）書類の閲覧権

受益者は、委託会社に対して、当該受益者に係る信託財産に関する書類の閲覧または謄写を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

- （１）当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

- （２）当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第7期計算期間（2022年4月26日から2023年4月24日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

【先進国資産配分コントロールファンド<安定型>】

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第 6 期 2022年 4 月25日現在	第 7 期 2023年 4 月24日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	1,039,288,887	69,600,885
投資信託受益証券	1,637,505,291	2,677,935,800
未収入金	155,000,000	-
流動資産合計	2,831,794,178	2,747,536,685
資産合計	2,831,794,178	2,747,536,685
負債の部		
流動負債		
未払解約金	6,993,765	5,619,185
未払受託者報酬	575,147	443,139
未払委託者報酬	18,021,089	13,884,974
未払利息	2,847	190
その他未払費用	95,795	73,801
流動負債合計	25,688,643	20,021,289
負債合計	25,688,643	20,021,289
純資産の部		
元本等		
元本	2,765,092,834	2,767,578,211
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	41,012,701	40,062,815
（分配準備積立金）	48,819,287	43,504,899
元本等合計	2,806,105,535	2,727,515,396
純資産合計	2,806,105,535	2,727,515,396
負債純資産合計	2,831,794,178	2,747,536,685

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第 6 期 自 2021年 4 月24日 至 2022年 4 月25日	第 7 期 自 2022年 4 月26日 至 2023年 4 月24日
営業収益		
受取配当金	5,470,033	4,497,510
有価証券売買等損益	9,380,101	55,834,556
営業収益合計	3,910,068	51,337,046
営業費用		
支払利息	191,054	615,227
受託者報酬	1,286,278	904,699
委託者報酬	40,303,141	28,347,127
その他費用	214,250	150,667
営業費用合計	41,994,723	30,017,720
営業利益又は営業損失 ()	45,904,791	81,354,766
経常利益又は経常損失 ()	45,904,791	81,354,766
当期純利益又は当期純損失 ()	45,904,791	81,354,766
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額 ()	5,576,839	7,497,080
期首剰余金又は期首欠損金 ()	146,544,950	41,012,701
剰余金増加額又は欠損金減少額	23,218,271	-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	23,218,271	-
剰余金減少額又は欠損金増加額	77,268,890	7,217,830
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	77,268,890	4,465,424
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	2,752,406
分配金	-	-
期末剰余金又は期末欠損金 ()	41,012,701	40,062,815

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	第 7 期 自 2022年 4 月26日 至 2023年 4 月24日
1 . 有価証券の評価基準及び 評価方法	投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2 . 収益及び費用の計上基準	(1) 受取配当金 原則として、投資信託受益証券の配当落ち日の基準価額を採用した日に確定配当金額を計上しております。 (2) 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3 . その他財務諸表作成のための 基本となる重要事項	2023年 4 月23日が休日のため、当計算期間末日を2023年 4 月24日としております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	第 6 期 2022年 4 月25日現在	第 7 期 2023年 4 月24日現在
1 . 受益権の総数	2,765,092,834口	2,767,578,211口
2 . 元本の欠損	- 円	40,062,815円
3 . 1 単位当たりの純資産の額 1 口当たり純資産額 (10,000口当たりの純資産額)	1.0148円 (10,148円)	0.9855円 (9,855円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第 6 期		
自 2021年 4 月24日		
至 2022年 4 月25日		
1 . 分配金の計算過程		
費用控除後の配当等収益額	A	- 円
費用控除後・繰越欠損金補填後の	B	- 円
有価証券売買等損益額		
収益調整金額	C	29,521,595 円
分配準備積立金額	D	48,819,287 円
当ファンドの分配対象収益額	$E=A+B+C+D$	78,340,882 円
当ファンドの期末残存口数	F	2,765,092,834 口
10,000口当たり収益分配対象額	$G=E/F*10,000$	283 円
10,000口当たり分配金額	H	- 円
収益分配金金額	$I=F*H/10,000$	- 円

第 7 期		
自 2022年 4 月26日		
至 2023年 4 月24日		
1 . 分配金の計算過程		
費用控除後の配当等収益額	A	- 円
費用控除後・繰越欠損金補填後の	B	- 円
有価証券売買等損益額		
収益調整金額	C	34,899,111 円
分配準備積立金額	D	43,504,899 円
当ファンドの分配対象収益額	$E=A+B+C+D$	78,404,010 円
当ファンドの期末残存口数	F	2,767,578,211 口
10,000口当たり収益分配対象額	$G=E/F*10,000$	283 円
10,000口当たり分配金額	H	- 円
収益分配金金額	$I=F*H/10,000$	- 円

（金融商品に関する注記）

．金融商品の状況に関する事項

項目	第 7 期 自 2022年 4 月26日 至 2023年 4 月24日
1．金融商品に対する 取組方針	当ファンドは証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用することを目的としております。
2．金融商品の内容及び リスク	当ファンドは、投資信託受益証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。その他、保有する金銭信託等の金銭債権及び金銭債務につきましては、信用リスク等を有しております。
3．金融商品に係るリスク 管理体制	当ファンドの委託会社の投資政策委員会において、運用に関する内規の作成のほか、投資方針の決定を行っております。運用部門から独立した組織であるコンプライアンス部において、信託財産の運用の指図につき法令、一般社団法人投資信託協会諸規則、社内規程及び投資信託約款等に定める運用の指図に関する事項の遵守状況の確認を行っております。また、運用評価委員会において、ファンドの運用パフォーマンスの分析・検証・評価、ファンドの組入有価証券の評価損率や、有価証券売買状況、組入状況の報告等により、全社的に投資リスクを把握し、管理を行っております。 当ファンドの委託会社では流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリング等を実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証等を行っております。また、取締役会等において、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について監督を行っております。

．金融商品の時価等に関する事項

項目	第 7 期 2023年 4 月24日現在
1．貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則として全て時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2．時価の算定方法	（１）投資信託受益証券 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。 （２）その他の金銭債権及び金銭債務 これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券の当計算期間の損益に含まれた評価差額

種類	第 6 期 2022年 4 月25日現在	第 7 期 2023年 4 月24日現在
投資信託受益証券	18,216,465円	8,325,262円
合 計	18,216,465円	8,325,262円

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（その他の注記）

元本の移動

項目	第 6 期 2022年 4 月25日現在	第 7 期 2023年 4 月24日現在
信託財産に係る元本の状況		
期首元本額	4,458,002,315円	2,765,092,834円
期中追加設定元本額	590,669,429円	321,673,441円
期中一部解約元本額	2,283,578,910円	319,188,064円

（重要な後発事象に関する注記）

該当事項はありません。

（４）【附属明細表】

有価証券明細表

< 株式以外の有価証券 >

（単位：円）

種 類	通貨	銘 柄	券面総額	評価額	備考
投資信託 受益証券	日本円	M U A MインデックスファンドT O P I X i （適格機関投資家限定）	185,263,407	332,103,183	
		国内物価連動国債インデックスファンド （適格機関投資家限定）	387,798,150	399,858,672	
		M U K A M日本債券インデックスファンド2 （適格機関投資家限定）	952,783,340	925,819,571	
		M U K A M外国株式インデックスファンド2 （適格機関投資家限定）	181,405,759	341,079,108	
		M U K A M外国債券インデックスファンド2 （適格機関投資家限定）	148,728,225	171,037,458	
		M U K A Mヘッジ付外国債券インデックス ファンド2（適格機関投資家限定）	563,234,821	508,037,808	
合計 6 銘柄			2,419,213,702	2,677,935,800	

(注) 券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

【先進国資産配分コントロールファンド＜成長型＞】

(1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	第 6 期 2022年 4 月25日現在	第 7 期 2023年 4 月24日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	342,112,260	33,175,836
投資信託受益証券	764,882,989	907,571,488
未収入金	114,000,000	115,000,000
流動資産合計	1,220,995,249	1,055,747,324
資産合計	1,220,995,249	1,055,747,324
負債の部		
流動負債		
未払解約金	1,722,114	1,577,660
未払受託者報酬	190,337	180,099
未払委託者報酬	7,550,101	7,143,907
未払利息	937	90
その他未払費用	31,670	29,954
流動負債合計	9,495,159	8,931,710
負債合計	9,495,159	8,931,710
純資産の部		
元本等		
元本	1,046,147,810	950,311,095
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	165,352,280	96,504,519
（ 分配準備積立金 ）	58,880,338	48,146,019
元本等合計	1,211,500,090	1,046,815,614
純資産合計	1,211,500,090	1,046,815,614
負債純資産合計	1,220,995,249	1,055,747,324

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第 6 期 自 2021年 4 月24日 至 2022年 4 月25日	第 7 期 自 2022年 4 月26日 至 2023年 4 月24日
営業収益		
受取配当金	3,692,839	2,092,532
有価証券売買等損益	41,195,719	44,829,714
営業収益合計	44,888,558	42,737,182
営業費用		
支払利息	49,071	263,652
受託者報酬	401,508	377,466
委託者報酬	15,926,585	14,972,682
その他費用	66,807	62,793
営業費用合計	16,443,971	15,676,593
営業利益又は営業損失（ ）	28,444,587	58,413,775
経常利益又は経常損失（ ）	28,444,587	58,413,775
当期純利益又は当期純損失（ ）	28,444,587	58,413,775
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	18,566,503	8,205,176
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	165,736,910	165,352,280
剰余金増加額又は欠損金減少額	56,786,582	13,199,612
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	56,786,582	13,199,612
剰余金減少額又は欠損金増加額	67,049,296	31,838,774
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	67,049,296	31,838,774
分配金	-	-
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	165,352,280	96,504,519

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	第 7 期 自 2022年 4 月26日 至 2023年 4 月24日
1 . 有価証券の評価基準及び 評価方法	投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2 . 収益及び費用の計上基準	(1) 受取配当金 原則として、投資信託受益証券の配当落ち日の基準価額を採用した日に確定配当金額を計上しております。 (2) 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3 . その他財務諸表作成のための 基本となる重要事項	2023年 4 月23日が休日のため、当計算期間末日を2023年 4 月24日としております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	第 6 期 2022年 4 月25日現在	第 7 期 2023年 4 月24日現在
1 . 受益権の総数	1,046,147,810口	950,311,095口
2 . 1 単位当たりの純資産の額		
1 口当たり純資産額	1.1581円	1.1016円
(10,000口当たりの純資産額)	(11,581円)	(11,016円)

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

第 6 期		
自 2021年 4 月24日		
至 2022年 4 月25日		
1 . 分配金の計算過程		
費用控除後の配当等収益額	A	1,208,066 円
費用控除後・繰越欠損金補填後の	B	8,670,018 円
有価証券売買等損益額		
収益調整金額	C	106,471,942 円
分配準備積立金額	D	49,002,254 円
当ファンドの分配対象収益額	$E=A+B+C+D$	165,352,280 円
当ファンドの期末残存口数	F	1,046,147,810 口
10,000口当たり収益分配対象額	$G=E/F*10,000$	1,580 円
10,000口当たり分配金額	H	- 円
収益分配金金額	$I=F*H/10,000$	- 円

第 7 期		
自 2022年 4 月26日		
至 2023年 4 月24日		
1 . 分配金の計算過程		
費用控除後の配当等収益額	A	- 円
費用控除後・繰越欠損金補填後の	B	- 円
有価証券売買等損益額		
収益調整金額	C	48,358,500 円
分配準備積立金額	D	48,146,019 円
当ファンドの分配対象収益額	$E=A+B+C+D$	96,504,519 円
当ファンドの期末残存口数	F	950,311,095 口
10,000口当たり収益分配対象額	$G=E/F*10,000$	1,015 円
10,000口当たり分配金額	H	- 円
収益分配金金額	$I=F*H/10,000$	- 円

(金融商品に関する注記)

・金融商品の状況に関する事項

項目	第7期 自 2022年4月26日 至 2023年4月24日
1. 金融商品に対する 取組方針	当ファンドは証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び リスク	当ファンドは、投資信託受益証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。その他、保有する金銭信託等の金銭債権及び金銭債務につきましては、信用リスク等を有しております。
3. 金融商品に係るリスク 管理体制	当ファンドの委託会社の投資政策委員会において、運用に関する内規の作成のほか、投資方針の決定を行っております。運用部門から独立した組織であるコンプライアンス部において、信託財産の運用の指図につき法令、一般社団法人投資信託協会諸規則、社内規程及び投資信託約款等に定める運用の指図に関する事項の遵守状況の確認を行っております。また、運用評価委員会において、ファンドの運用パフォーマンスの分析・検証・評価、ファンドの組入有価証券の評価損率や、有価証券売買状況、組入状況の報告等により、全社的に投資リスクを把握し、管理を行っております。 当ファンドの委託会社では流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリング等を実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証等を行っております。また、取締役会等において、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について監督を行っております。

・金融商品の時価等に関する事項

項目	第7期 2023年4月24日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則として全て時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 投資信託受益証券 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。 (2) その他の金銭債権及び金銭債務 これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券の当計算期間の損益に含まれた評価差額

種類	第 6 期 2022年 4 月25日現在	第 7 期 2023年 4 月24日現在
投資信託受益証券	2,933,368円	10,701,850円
合 計	2,933,368円	10,701,850円

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（その他の注記）

元本の移動

項目	第 6 期 2022年 4 月25日現在	第 7 期 2023年 4 月24日現在
信託財産に係る元本の状況		
期首元本額	1,190,814,188円	1,046,147,810円
期中追加設定元本額	328,926,088円	107,745,262円
期中一部解約元本額	473,592,466円	203,581,977円

（重要な後発事象に関する注記）

該当事項はありません。

（４）【附属明細表】

有価証券明細表
< 株式以外の有価証券 >

（単位：円）

種 類	通貨	銘 柄	券面総額	評価額	備考
投資信託 受益証券	日本円	M U A MインデックスファンドT O P I X i （適格機関投資家限定）	111,746,520	200,316,811	
		国内物価連動国債インデックスファンド （適格機関投資家限定）	40,898,608	42,170,554	
		M U K A M日本債券インデックスファンド2 （適格機関投資家限定）	171,203,259	166,358,206	
		M U K A M外国株式インデックスファンド2 （適格機関投資家限定）	128,248,705	241,133,215	
		M U K A M外国債券インデックスファンド2 （適格機関投資家限定）	24,652,284	28,350,126	
		M U K A Mヘッジ付外国債券インデックス ファンド2（適格機関投資家限定）	254,149,198	229,242,576	
合計 6 銘柄			730,898,574	907,571,488	

（注）券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

【中間財務諸表】

- （１） 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）並びに同規則第38条の3及び第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

- （２） 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第8期中間計算期間（2023年4月25日から2023年10月24日まで）の中間財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により中間監査を受けております。

中間財務諸表

【先進国資産配分コントロールファンド<安定型>】

(1) 【中間貸借対照表】

(単位：円)

	第 7 期 2023年 4 月24日現在	第 8 期中間計算期間末 2023年10月24日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	69,600,885	63,968,323
投資信託受益証券	2,677,935,800	2,330,338,674
流動資産合計	2,747,536,685	2,394,306,997
資産合計	2,747,536,685	2,394,306,997
負債の部		
流動負債		
未払解約金	5,619,185	8,375,944
未払受託者報酬	443,139	425,232
未払委託者報酬	13,884,974	13,323,877
未払利息	190	175
その他未払費用	73,801	70,808
流動負債合計	20,021,289	22,196,036
負債合計	20,021,289	22,196,036
純資産の部		
元本等		
元本	2,767,578,211	2,391,616,595
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	40,062,815	19,505,634
（ 分配準備積立金 ）	43,504,899	36,185,844
元本等合計	2,727,515,396	2,372,110,961
純資産合計	2,727,515,396	2,372,110,961
負債純資産合計	2,747,536,685	2,394,306,997

（２）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第 7 期中間計算期間 自 2022年 4 月26日 至 2022年10月25日	第 8 期中間計算期間 自 2023年 4 月25日 至 2023年10月24日
営業収益		
受取配当金	691,643	3,301,682
有価証券売買等損益	73,534,019	35,402,874
営業収益合計	72,842,376	38,704,556
営業費用		
支払利息	469,053	29,315
受託者報酬	461,560	425,232
委託者報酬	14,462,153	13,323,877
その他費用	76,866	70,808
営業費用合計	15,469,632	13,849,232
営業利益又は営業損失（ ）	88,312,008	24,855,324
経常利益又は経常損失（ ）	88,312,008	24,855,324
中間純利益又は中間純損失（ ）	88,312,008	24,855,324
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	1,328,358	11,763,021
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	41,012,701	40,062,815
剰余金増加額又は欠損金減少額	859,629	7,464,878
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	6,704,040
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	859,629	760,838
剰余金減少額又は欠損金増加額	2,114,589	-
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	2,114,589	-
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	47,225,909	19,505,634

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	第 8 期中間計算期間 自 2023年 4 月25日 至 2023年10月24日
1 . 有価証券の評価基準及び 評価方法	投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価に当たっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて 評価しております。
2 . 収益及び費用の計上基準	(1) 受取配当金 原則として、投資信託受益証券の配当落ち日の基準価額を採 用した日に確定配当金額を計上しております。 (2) 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3 . その他財務諸表作成のため の基本となる重要な事項	当中間計算期間は前期末が休日のため、2023年 4 月25日から2023 年10月24日までとなっております。

(中間貸借対照表に関する注記)

項目	第 7 期 2023年 4 月24日現在	第 8 期中間計算期間末 2023年10月24日現在
1 . 受益権の総数	2,767,578,211口	2,391,616,595口
2 . 元本の欠損	40,062,815円	19,505,634円
3 . 1 単位当たりの純資産の額		
1 口当たり純資産額	0.9855円	0.9918円
(10,000口当たりの純資産額)	(9,855円)	(9,918円)

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

該当事項はありません。

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

項目	第 8 期中間計算期間末 2023年10月24日現在
1．中間貸借対照表計上額、 時価及びその差額	中間貸借対照表上の金融商品は原則として全て時価で評価しているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2．時価の算定方法	（１）投資信託受益証券 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。 （２）その他の金銭債権及び金銭債務 これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

（その他の注記）

元本の移動

項目	第 7 期 2023年 4 月24日現在	第 8 期中間計算期間末 2023年10月24日現在
投資信託財産に係る元本の状況		
期首元本額	2,765,092,834円	2,767,578,211円
期中追加設定元本額	321,673,441円	97,913,870円
期中一部解約元本額	319,188,064円	473,875,486円

（重要な後発事象に関する注記）

該当事項はありません。

【先進国資産配分コントロールファンド＜成長型＞】

(1) 【中間貸借対照表】

(単位：円)

	第 7 期 2023年 4 月24日現在	第 8 期中間計算期間末 2023年10月24日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	33,175,836	32,618,821
投資信託受益証券	907,571,488	863,823,857
未収入金	115,000,000	-
流動資産合計	1,055,747,324	896,442,678
資産合計	1,055,747,324	896,442,678
負債の部		
流動負債		
未払解約金	1,577,660	14,071,141
未払受託者報酬	180,099	167,992
未払委託者報酬	7,143,907	6,663,580
未払利息	90	89
その他未払費用	29,954	27,940
流動負債合計	8,931,710	20,930,742
負債合計	8,931,710	20,930,742
純資産の部		
元本等		
元本	950,311,095	781,364,770
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金 ()	96,504,519	94,147,166
(分配準備積立金)	48,146,019	37,559,787
元本等合計	1,046,815,614	875,511,936
純資産合計	1,046,815,614	875,511,936
負債純資産合計	1,055,747,324	896,442,678

(2) 【中間損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第 7 期中間計算期間 自 2022年 4 月26日 至 2022年10月25日	第 8 期中間計算期間 自 2023年 4 月25日 至 2023年10月24日
営業収益		
受取配当金	-	3,845,186
有価証券売買等損益	36,262,999	26,428,562
営業収益合計	36,262,999	30,273,748
営業費用		
支払利息	202,740	13,974
受託者報酬	197,367	167,992
委託者報酬	7,828,775	6,663,580
その他費用	32,839	27,940
営業費用合計	8,261,721	6,873,486
営業利益又は営業損失 ()	44,524,720	23,400,262
経常利益又は経常損失 ()	44,524,720	23,400,262
中間純利益又は中間純損失 ()	44,524,720	23,400,262
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額 ()	1,320,296	10,315,407
期首剰余金又は期首欠損金 ()	165,352,280	96,504,519
剰余金増加額又は欠損金減少額	8,162,926	6,744,041
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	8,162,926	6,744,041
剰余金減少額又は欠損金増加額	11,055,159	22,186,249
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	11,055,159	22,186,249
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金 ()	119,255,623	94,147,166

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	第 8 期中間計算期間 自 2023年 4 月25日 至 2023年10月24日
1 . 有価証券の評価基準及び 評価方法	投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価に当たっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて 評価しております。
2 . 収益及び費用の計上基準	(1) 受取配当金 原則として、投資信託受益証券の配当落ち日の基準価額を採 用した日に確定配当金額を計上しております。 (2) 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3 . その他財務諸表作成のため の基本となる重要な事項	当中間計算期間は前期末が休日のため、2023年 4 月25日から2023 年10月24日までとなっております。

(中間貸借対照表に関する注記)

項目	第 7 期 2023年 4 月24日現在	第 8 期中間計算期間末 2023年10月24日現在
1 . 受益権の総数	950,311,095口	781,364,770口
2 . 1 単位当たりの純資産の額 1 口当たり純資産額 (10,000口当たりの純資産額)	1.1016円 (11,016円)	1.1205円 (11,205円)

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

該当事項はありません。

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

項目	第 8 期中間計算期間末 2023年10月24日現在
1．中間貸借対照表計上額、 時価及びその差額	中間貸借対照表上の金融商品は原則として全て時価で評価しているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2．時価の算定方法	（１）投資信託受益証券 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。 （２）その他の金銭債権及び金銭債務 これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

（その他の注記）

元本の移動

項目	第 7 期 2023年 4 月24日現在	第 8 期中間計算期間末 2023年10月24日現在
投資信託財産に係る元本の状況		
期首元本額	1,046,147,810円	950,311,095円
期中追加設定元本額	107,745,262円	47,020,035円
期中一部解約元本額	203,581,977円	215,966,360円

（重要な後発事象に関する注記）

該当事項はありません。

2【ファンドの現況】

【先進国資産配分コントロールファンド＜安定型＞】

【純資産額計算書】

2023年11月30日現在

資産総額	2,415,816,070 円
負債総額	35,378,767 円
純資産総額（ - ）	2,380,437,303 円
発行済口数	2,332,058,070 口
1口当たり純資産額（ / ）	1.0207 円
（1万口当たり純資産額）	（10,207 円）

【先進国資産配分コントロールファンド＜成長型＞】

【純資産額計算書】

2023年11月30日現在

資産総額	891,465,930 円
負債総額	47,139,987 円
純資産総額（ - ）	844,325,943 円
発行済口数	723,291,719 口
1口当たり純資産額（ / ）	1.1673 円
（1万口当たり純資産額）	（11,673 円）

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

1 名義書換についてその手続、取扱場所、取次所、代理人の名称及び住所並びに手数料

該当事項はありません。

2 受益者等に対する特典

該当事項はありません。

3 内国投資信託受益証券の譲渡制限の内容

該当事項はありません。

4 受益権について

ファンドの受益権は、振替制度における振替受益権であるため、委託会社は、ファンドの受益権を取扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

5 受益権の譲渡および譲渡制限等

受益権の譲渡

イ．受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

ロ．イの申請のある場合には、イの振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、イの振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

ハ．委託会社は、イの振替について、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

6 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社振法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

7 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権に係る収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払い等については、投資信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

(1) 資本金の額（2023年11月末現在）	1億2,000万円
会社が発行する株式の総数	4,000株
発行済株式の総数	2,400株
最近5年における主な資本金の額の増減	なし

(2) 委託会社の機構

< 委託会社の意思決定機構 >

委託会社は、3名以上で構成される取締役会により運営されます。

取締役は、委託会社の株主であることを要しません。

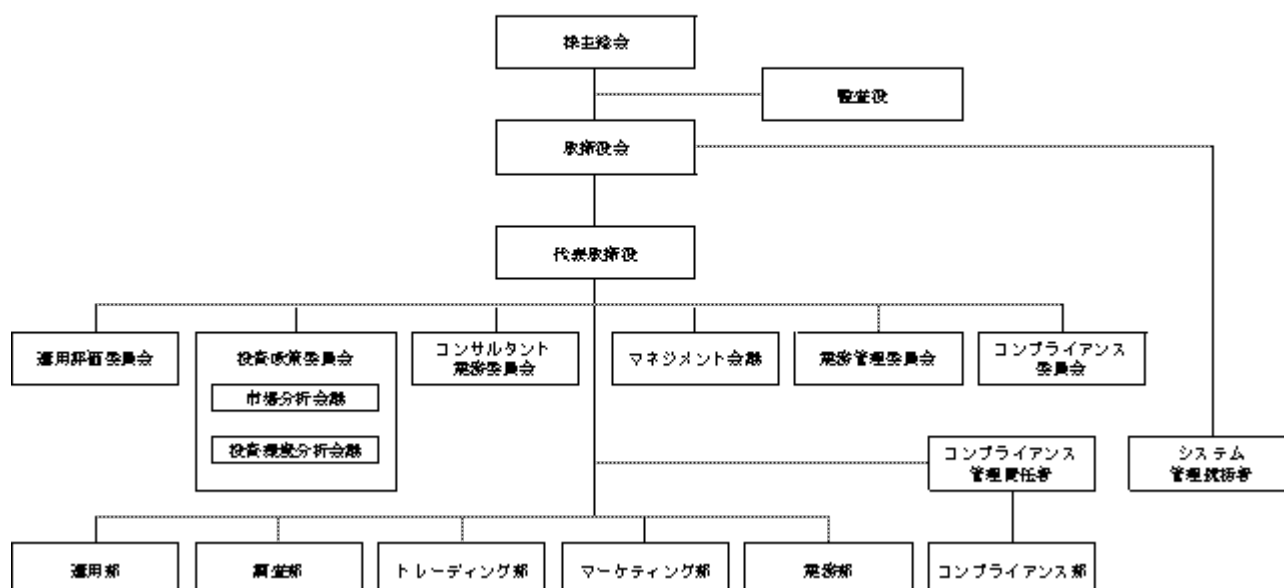
取締役は、株主総会において株主によって選任され、その任期は選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結のときまでとします。

取締役会は、代表取締役を選定するほか、取締役社長1名、専務取締役および常務取締役を若干名定めることができます。

取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、原則として、取締役社長が招集し、議長となります。

取締役会の決議は、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役の過半数が出席したうえで、出席取締役の過半数をもって行います。

組 織 図



上記組織は、2023年11月末現在のものであり、今後変更となる可能性があります。

< 運用の意思決定機構 >

投資環境分析会議および市場分析会議は、運用部長を議長として原則月1回開催し、それぞれにおいて経済・社会・金融・国際情勢等の投資環境分析、株式市場等のマーケット分析を行います。

運用評価委員会は、社長を委員長として原則月1回開催し、運用成果の評価・分析および運用リスクの評価を行います。

投資政策委員会は、運用部長を委員長として原則月1回開催し、上記会議の評価・分析内容等を踏まえ、運用対象とする有価証券の種類・銘柄、有価証券に係る投資対象業種別期待収益率、投資対象国別の通貨・株式・債券等の投資価値等の評価・検討を行い、投資方針を決定します。

業務管理委員会は、社長を委員長として原則月1回開催し、運用に係るリスクの管理、コンプライアンスに係る事項の検証を行うことで、運用の意思決定に対する牽制機能としての役割を担っています。

マネジメント会議は、社長または社長が指名する常勤取締役を議長として必要により随時開催し、投資信託の運営に係る事項（商品組成・投資信託約款・分配金・償還等）の審議・決定を行います。

2【事業の内容及び営業の概況】

当社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社として証券投資信託の設定を行うとともに、「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として、その運用（投資運用業）を行っています。

また、「金融商品取引法」に定める投資一任契約に係る投資運用業、投資助言・代理業、第二種金融商品取引業を行っています。

2023年11月末日現在における、委託会社の運用する証券投資信託は追加型株式投資信託21本、純資産総額は754億円です。（親投資信託を除きます。）

3【委託会社等の経理状況】

- (1) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。
- また、当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号。以下「中間財務諸表等規則」という。）並びに同規則第38条及び第57条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。
- (2) 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第36期事業年度（2022年4月1日から2023年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人の監査を受けております。
- また、第37期事業年度に係る中間会計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）の中間財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人の中間監査を受けております。
- (3) 財務諸表の金額については、千円未満の端数を切り捨てて記載しております。

（１）【貸借対照表】

（単位：千円）

	前事業年度 (2022年 3 月31日)		当事業年度 (2023年 3 月31日)	
資産の部				
流動資産				
預金	2	988,612		1,209,319
前払費用		1,722		1,745
未収還付法人税等		-		180,091
未収委託者報酬		158,689		154,848
仮払金		21		10
その他		0		0
流動資産合計		1,149,046		1,546,014
固定資産				
有形固定資産				
建物（純額）		373		320
器具備品（純額）		6,434		4,640
有形固定資産合計	1	6,807	1	4,960
無形固定資産				
電話加入権		466		466
無形固定資産合計		466		466
投資その他の資産				
投資有価証券		12,482		9,977
関係会社株式		2,700		-
長期差入保証金	2	7,714		7,714
繰延税金資産		9,363		8,882
投資その他の資産合計		32,259		26,573
固定資産合計		39,534		32,000
資産合計		1,188,580		1,578,015

（単位：千円）

		前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
負債の部			
流動負債			
預り金		486	708
未払金		52,928	54,042
未払手数料	2	45,597	44,634
その他未払金		7,330	9,407
未払費用		2,453	2,736
未払法人税等		33,367	5,920
未払消費税等		11,002	5,888
契約負債	2	29,956	29,958
賞与引当金		7,810	8,429
役員賞与引当金		1,108	1,484
流動負債合計		139,112	109,168
固定負債			
退職給付引当金		10,699	10,613
役員退職慰労引当金		2,398	3,188
固定負債合計		13,097	13,801
負債合計		152,209	122,969
純資産の部			
株主資本			
資本金		120,000	120,000
利益剰余金			
利益準備金		30,000	30,000
その他利益剰余金		886,383	1,889,771
繰越利益剰余金		886,383	1,889,771
利益剰余金合計		916,383	1,919,771
自己株式		-	584,709
株主資本合計		1,036,383	1,455,061
評価・換算差額等			
その他有価証券評価差額金		12	15
評価・換算差額等合計		12	15
純資産合計		1,036,371	1,455,046
負債純資産合計		1,188,580	1,578,015

（２）【損益計算書】

（単位：千円）

	前事業年度 （自 2021年 4 月 1日 至 2022年 3 月31日）		当事業年度 （自 2022年 4 月 1日 至 2023年 3 月31日）	
営業収益				
委託者報酬		547,821		529,056
運用受託報酬		36,216		36,360
投資助言報酬		1,700		1,700
その他営業収益		20,575		20,475
営業収益計	1	2	1	2
		606,313		587,591
営業費用				
支払手数料		152,932		150,296
広告宣伝費		1,468		8,533
調査費		65,477		69,608
調査費		65,477		69,608
営業雑経費		9,034		9,648
通信費		1,339		1,338
印刷費		6,225		6,810
協会費		1,264		1,289
諸会費		205		209
営業費用計		228,913		238,087
一般管理費				
給料		150,676		160,677
役員報酬		10,692		12,132
給料・手当		86,580		87,007
賞与		23,550		28,950
賞与引当金繰入額		7,810		8,429
役員賞与引当金繰入額		1,253		1,712
法定福利費		20,438		22,056
その他の福利厚生費		352		388
交際費		168		511
旅費交通費		1,109		3,324
租税公課		4,224		4,347
不動産賃借料		8,264		8,264
退職給付費用		2,726		2,496
役員退職慰労引当金繰入額		728		790
固定資産減価償却費		3,173		2,445
諸経費		21,376		22,193

一般管理費計		192,448		205,050
営業利益		184,950		144,454
営業外収益				
受取配当金	2	22,303	2	25,370
有価証券利息		25		7
受取利息		4		15
雑益		-		320
営業外収益計		22,333		25,713
営業外費用				
固定資産除却損		0		-
雑損		0		18
営業外費用計		0		18
経常利益		207,283		170,149
特別利益				
投資有価証券売却益		-		252,343
関係会社株式売却益		-		671,060
特別利益計		-		923,403
税引前当期純利益		207,283		1,093,552
法人税、住民税及び事業税		57,703		44,588
法人税等調整額		734		482
法人税等合計		56,968		45,070
当期純利益		150,314		1,048,481

（３）【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2021年４月１日 至 2022年３月31日）

（単位：千円）

	株主資本					評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	利益剰余金			株主資本 合 計	その他有価証券 評価差額金	
		利 益 準備金	その他 利益剰余金	利 益 剰余金 合 計			
			繰越利益 剰 余 金				
当期首残高	120,000	30,000	776,427	806,427	926,427	10	926,416
当期変動額							
剰余金の配当			40,358	40,358	40,358		40,358
当期純利益			150,314	150,314	150,314		150,314
株主資本以外 の項目の 当期変動額 (純額)						2	2
当期変動額合計	-	-	109,956	109,956	109,956	2	109,954
当期末残高	120,000	30,000	886,383	916,383	1,036,383	12	1,036,371

当事業年度（自 2022年４月１日 至 2023年３月31日）

（単位：千円）

	株主資本						評価・換 算差額等	純資産合計
	資本金	利益剰余金			自己株式	株主資本 合 計	その他 有価証 券評価 差額金	
		利 益 準備金	その他 利益剰余金 繰越利益 剰 余 金	利 益 剰余金 合 計				
当期首残高	120,000	30,000	886,383	916,383	-	1,036,383	12	1,036,371
当期変動額								
剰余金の配当			45,093	45,093		45,093		45,093
当期純利益			1,048,481	1,048,481		1,048,481		1,048,481
自己株式の取得					584,709	584,709		584,709
株主資本以外の 項目の 当期変動額 (純額)							3	3
当期変動額合計	-	-	1,003,388	1,003,388	584,709	418,678	3	418,674
当期末残高	120,000	30,000	1,889,771	1,919,771	584,709	1,455,061	15	1,455,046

注記事項

（重要な会計方針）

１．有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

２．固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以降に取得する建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下の通りであります。

建物	3～15年
器具備品	4～20年

3. 引当金の計上基準**(1) 賞与引当金**

従業員の賞与金の支払に備えるため、賞与支給見込額の当期負担額を計上しております。

(2) 役員賞与引当金

役員賞与の支払に備えるため、当事業年度の負担すべき支給見込額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員への退職慰労金の支払に備えるため、役員退職慰労金支給規程に基づく期末要支給額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準**顧客との取引に係る収益の計上方法**

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号2021年3月26日）を適用しており、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

委託者報酬

委託者報酬は当社が運用するファンドに係る信託報酬で、ファンドの日々の純財産総額に一定率を乗じて算出された報酬金額を、役務を提供し、かつ当該金額が明らかになったときに計上しております。

運用受託報酬

運用受託報酬は当社が請け負う投資一任契約に係る報酬で、顧客との投資顧問契約で定める受託資産額、投資顧問報酬率、計算期間により算出された報酬金額を、役務を提供し、かつ当該金額が明らかになったときに計上しております。

投資助言報酬

投資助言報酬は投資顧問契約に基づき、助言を行うことに係る報酬で、顧客との契約で定める投資顧問報酬額、計算期間により算出された報酬金額を、役務を提供し、かつ当該金額が明らかになったときに計上しております。

(会計方針の変更)**(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)**

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。

なお、財務諸表に与える影響はありません。

(貸借対照表関係)**1 有形固定資産の減価償却累計額**

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
建物	2,007千円	2,061千円
器具備品	12,227	14,619

2 関係会社に対する資産及び負債

各科目に含まれているものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (2022年 3 月31日)	当事業年度 (2023年 3 月31日)
預金	982,777 千円	-千円
長期差入保証金	7,604	-
未払手数料	14,423	-
契約負債	29,956	-

(損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

営業収益は、全て顧客との契約から生じる収益であります。

2 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2021年 4 月 1 日 至 2022年 3 月31日)	当事業年度 (自 2022年 4 月 1 日 至 2023年 3 月31日)
営業収益	49,071千円	24,425千円
受取配当金	17,595	21,280

（株主資本等変動計算書関係）

前事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1．発行済株式に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度 増加株式数（株）	当事業年度 減少株式数（株）	当事業年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	2,400	-	-	2,400
合計	2,400	-	-	2,400

2．配当に関する事項

（1）配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
2021年6月28日 定時株主総会	普通株式	40,358	16,816	2021年3月31日	2021年6月29日

（2）基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 （千円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
2022年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	45,093	18,789	2022年3月31日	2022年6月28日

当事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1．発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度 増加株式数（株）	当事業年度 減少株式数（株）	当事業年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	2,400	-	-	2,400
合計	2,400	-	-	2,400
自己株式				
普通株式	-	1,200	-	1,200
合計	-	1,200	-	1,200

（変動事由の概要）

自己株式の増加1,200株は、グループ再編に伴う自己株式の取得によるものであります。

2．配当に関する事項

（1）配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
2022年6月27日 定時株主総会	普通株式	45,093	18,789	2022年3月31日	2022年6月28日

（2）基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの
該当事項はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

投資有価証券は投資信託であり、市場価格の変動リスクにさらされております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

投資有価証券については、四半期ごとに時価を把握し、取締役会に報告しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前事業年度（2022年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
投資有価証券 其他有価証券	9,982	9,982	-
資産計	9,982	9,982	-

* 1. 「預金」「未収委託者報酬」「未払手数料」及び「未払法人税等」については、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

* 2. 市場価格のない株式等は「投資有価証券」には含まれておりません。

当該金融商品の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	前事業年度(千円)
非上場株式	2,500

当事業年度（2023年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
投資有価証券 其他有価証券	9,977	9,977	-
資産計	9,977	9,977	-

* 「預金」「未収還付法人税等」「未収委託者報酬」「未払手数料」については、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注1) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度（2022年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	988,612	-	-	-
未収委託者報酬	158,689	-	-	-
合 計	1,147,301	-	-	-

当事業年度（2023年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	1,209,319	-	-	-
未収還付法人税等	180,091	-	-	-
未収委託者報酬	154,848	-	-	-
合 計	1,544,258	-	-	-

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価で貸借対照表に計上している金融商品

当事業年度（2023年3月31日）

区分	時 価 (千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合 計
投資有価証券 其他有価証券 投資信託	-	9,977	-	9,977
合 計	-	9,977	-	9,977

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

当社が保有している投資信託は、基準価額を用いて評価しており、その時価をレベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

其他有価証券

前事業年度（2022年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 投資信託	9,982	10,000	17
合計	9,982	10,000	17

当事業年度（2023年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 投資信託	9,977	10,000	22
合計	9,977	10,000	22

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。

なお、当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2. 簡便法を適用した退職給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
退職給付引当金の期首残高	8,446 千円	10,699 千円
退職給付費用	2,253	1,996
退職給付の支払額	-	2,082
退職給付引当金の期末残高	10,699	10,613

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び
前払年金費用の調整表

	前事業年度 (2022年 3 月31日)	当事業年度 (2023年 3 月31日)
積立型制度の退職給付債務	-	-
年金資産	-	-
	-	-
非積立型制度の退職給付債務	10,699 千円	10,613 千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	10,699	10,613
退職給付引当金	10,699	10,613
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	10,699	10,613

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用（注） 前事業年度2,726千円 当事業年度2,496千円

（注）出向受入者に係る費用負担の金額を含んでおります。

(税効果会計関係)

1 . 繰延税金資産の発生的主要原因別の内訳

	前事業年度 (2022年 3 月31日)	当事業年度 (2023年 3 月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	3,263 千円	3,236 千円
賞与引当金	2,382	2,570
未払事業税等	1,807	1,047
減価償却費	787	456
未払事業所税	-	146
その他	1,123	1,423
繰延税金資産合計	9,363	8,882

2 . 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該
差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2022年 3 月31日)	当事業年度 (2023年 3 月31日)
法定実効税率	30.5 %	30.5 %
（調整）		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.2	0.1
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	3.3	26.5
住民税均等割	0.1	0.0
評価性引当額の増減額	0.0	0.0
その他	0.1	0.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	27.5	4.1

(収益認識関係)

1.顧客との契約から生じる収益を分解した情報

	前事業年度 (自 2021年 4 月 1日 至 2022年 3 月31日)	当事業年度 (自 2022年 4 月 1日 至 2023年 3 月31日)
営業収益		
委託者報酬	547,821 千円	529,056 千円
運用受託報酬	36,216	36,360
投資助言報酬	1,700	1,700
その他	20,575	20,475
顧客との契約から生じる収益	606,313	587,591

2.収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は「重要な会計方針4.収益及び費用の計上基準」に記載の通りであります。

3.顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当事業年度末において存在する顧客との契約から翌事業年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1)顧客との契約から生じた債権及び契約負債の残高等

(単位：千円)

	前事業年度	
	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権	159,739	158,689
契約負債	29,956	29,956

契約負債は、投資一任契約に基づく運用受託報酬として、支払条件に基づき顧客から受け取った前受金に関するものであります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。

当事業年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、29,956千円であります。

(単位：千円)

	当事業年度	
	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権	158,689	154,848
契約負債	29,956	29,958

契約負債は、投資一任契約に基づく運用受託報酬として、支払条件に基づき顧客から受け取った前受金に関するものであります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。

当事業年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、29,956千円であります。

(2)残存履行義務に配分した取引価格

当社では、当初に予定される契約期間が1年以内であるため、残存履行義務に配分した取引価格の総額及び収益の認識が見込まれる期間の記載を省略しております。

（セグメント情報等）

〔セグメント情報〕

当社は、資産運用に関する事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

〔関連情報〕

前事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1．サービスごとの情報

単一のサービス区分の営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

（1）営業収益

本邦顧客からの営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

（2）有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1．サービスごとの情報

単一のサービス区分の営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

（1）営業収益

本邦顧客からの営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

（2）有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

〔報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報〕

該当事項はありません。

〔報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報〕

該当事項はありません。

〔報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報〕

該当事項はありません。

〔関連当事者情報〕

1．関連当事者との取引

財務諸表提出会社と関連当事者との取引

（1）財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等に限る。）等

前事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	㈱中国銀行	岡山県 岡山市北区	15,149	銀行業	(被所有) 直接 50.0 間接 50.0	投資一任契約 投信の販売委託 コンサルタント 投資助言 役員の兼任 質借契約	投資一任の受託 投信の販売委託 コンサルタント業務の提供 投資助言サービスの提供 保証金の差入	27,996 41,491 20,575 500 -	契約負債 未払手数料 - - 長期差入保証金	29,956 14,423 - - 7,604

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

投資一任の受託に関しては、一般の取引条件を基に、両者協議の上、合理的に決定しております。

投信の販売委託に関しては、商品性等を勘案し総合的に決定しております。

コンサルタント業務の提供に関しては、一般の取引条件を基に、両者協議の上、合理的に決定しております。

投資助言サービスの提供に関しては、一般の取引条件を基に、両者協議の上、合理的に決定しております。

当事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

該当事項はありません。

(2) 財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び財務諸表提出会社のその他の関係会社

前事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
同一の親会社を持つ会社	中銀証券㈱	岡山県 岡山市北区	2,000	第一種金融 商品取引業	-	投信の販売委託	投信の販売委託	65,649	未払手数料	16,011

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

投信の販売委託に関しては、商品性等を勘案し総合的に決定しております。

当事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
同一の親会社を持つ会社	㈱中国銀行	岡山県 岡山市北区	15,149	銀行業	-	投資一任契約 投信の販売委託 コンサルタント 投資助言 役員の兼任 質借契約	投資一任の受託 投信の販売委託 コンサルタント業務の提供 投資助言サービスの提供 保証金の差入	27,996 38,345 20,475 500 -	契約負債 未払手数料 - - 長期差入保証金	29,958 13,404 - - 7,604
同一の親会社を持つ会社	中銀証券㈱	岡山県 岡山市北区	2,000	第一種金融 商品取引業	-	投信の販売委託	投信の販売委託	65,748	未払手数料	16,812
同一の親会社を持つ会社	中銀カード㈱	岡山県 岡山市北区	50	クレジット カード業	-	-	自己株式の取得 投資有価証券売却	58,470 254,843	- -	- -

同一の親会社を持つ会社	中銀リース㈱	岡山県岡山市北区	50	リース業	-	-	自己株式の取得	243,629	-	-
同一の親会社を持つ会社 その他の関係会社	中銀保証㈱	岡山県岡山市北区	50	保証業	-	-	自己株式の取得 関係会社株式の売却	282,609 673,760	- -	- -

（注）１．上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

２．取引条件及び取引条件の決定方針等

投資一任の受託に関しては、一般の取引条件を基に、両者協議の上、合理的に決定しております。

投信の販売委託に関しては、商品性等を勘案し総合的に決定しております。

コンサルタント業務の提供に関しては、一般の取引条件を基に、両者協議の上、合理的に決定しております。

投資助言サービスの提供に関しては、一般の取引条件を基に、両者協議の上、合理的に決定しております。

３．投資有価証券の売却、自己株式の取得及び関係会社株式の売却における譲渡価格は対象会社の純資産等を基礎として協議の上、決定しております。なお、損益計算書においては投資有価証券売却益252,343千円及び関係会社株式売却益671,060千円が特別利益に計上されております。

２．親会社に関する注記

親会社情報

(株)ちゅうぎんフィナンシャルグループ（東京証券取引所に上場）

（１株当たり情報）

	前事業年度 （自 2021年 4 月 1日 至 2022年 3 月31日）	当事業年度 （自 2022年 4 月 1日 至 2023年 3 月31日）
１株当たり純資産額	431,821円26銭	1,212,538円36銭
１株当たり当期純利益金額	62,631円13銭	582,489円81銭

（注）１．潜在株式調整後１株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

２．１株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前事業年度 （自 2021年 4 月 1日 至 2022年 3 月31日）	当事業年度 （自 2022年 4 月 1日 至 2023年 3 月31日）
当期純利益（千円）	150,314	1,048,481
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る当期純利益（千円）	150,314	1,048,481
普通株式の期中平均株式数（株）	2,400	1,800

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

(単位:千円)

	当中間会計期間末 (2023年9月30日)
資産の部	
流動資産	
預金	1,445,733
前払費用	1,755
未収委託者報酬	167,342
契約資産	935
仮払金	343
その他	0
流動資産合計	1,616,110
固定資産	
有形固定資産	
建物（純額）	293
器具備品（純額）	3,612
有形固定資産合計	1 3,906
無形固定資産	466
投資その他の資産	
投資有価証券	9,976
長期差入保証金	7,714
繰延税金資産	9,662
投資その他の資産合計	27,352
固定資産合計	31,725
資産合計	1,647,835

（単位:千円）

		当中間会計期間末 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
預り金		957
未払金		54,498
未払手数料		47,727
その他未払金		6,770
未払費用		3,170
未払法人税等		28,017
未払消費税等	2	9,434
契約負債		14,558
賞与引当金		8,966
流動負債合計		119,602
固定負債		
退職給付引当金		11,611
役員退職慰労引当金		3,593
固定負債合計		15,204
負債合計		134,806
純資産の部		
株主資本		
資本金		120,000
利益剰余金		
利益準備金		30,000
その他利益剰余金		1,947,755
繰越利益剰余金		1,947,755
利益剰余金合計		1,977,755
自己株式		584,709
株主資本合計		1,513,045
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		16
評価・換算差額等合計		16
純資産合計		1,513,029
負債純資産合計		1,647,835

(2) 中間損益計算書

(単位:千円)

当中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	
営業収益	
委託者報酬	284,646
運用受託報酬	18,199
投資助言報酬	850
その他営業収益	10,137
営業収益計	313,833
営業費用	
支払手数料	81,488
広告宣伝費	2,550
調査費	37,671
その他営業費用	5,256
営業費用計	126,966
一般管理費	103,799
営業利益	83,066
営業外収益	203
営業外費用	0
経常利益	83,270
税引前中間純利益	83,270
法人税、住民税及び事業税	26,066
法人税等調整額	779
法人税等合計	25,286
中間純利益	57,983

(3) 中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本						評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
		利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計				
			繰越利益剰余金					
当期首残高	120,000	30,000	1,889,771	1,919,771	584,709	1,455,061	15	1,455,046
中間純利益			57,983	57,983		57,983		57,983
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)							0	0
当中間期変動額合計	-	-	57,983	57,983	-	57,983	0	57,983
当中間期末残高	120,000	30,000	1,947,755	1,977,755	584,709	1,513,045	16	1,513,029

注記事項

（重要な会計方針）

	当中間会計期間 (自 2023年4月 1 日 至 2023年9月 30 日)
1．有価証券の評価基準及び評価方法	その他有価証券 市場価格のない株式等以外のもの 時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。
2．固定資産の減価償却の方法	(1)有形固定資産 定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以降に取得する建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下の通りであります。 建物 3～15年 器具備品 4～20年 (2)無形固定資産 定額法を採用しております。
3．引当金の計上基準	(1)賞与引当金 従業員の賞与金の支払に備えるため、賞与支給見込額の当中間会計期間負担額を計上しております。 (2)役員賞与引当金 役員賞与の支払に備えるため、当事業年度の負担すべき支給見込額に基づき計上しております。なお、中間会計期間における計上額はありません。 (3)退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。 (4)役員退職慰労引当金 役員への退職慰労金の支払に備えるため、役員退職慰労金支給規定に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準	顧客との取引に係る収益の計上方法 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号2021年3月26日）を適用しており、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。 委託者報酬 委託者報酬は当社が運用するファンドに係る信託報酬で、ファンドの日々の純財産総額に一定率を乗じて算出された報酬金額を、役務を提供し、かつ当該金額が明らかになったときに計上しております。 運用受託報酬 運用受託報酬は当社が請け負う投資一任契約に係る報酬で、顧客との投資顧問契約で定める受託資産額、投資顧問報酬率、計算期間により算出された報酬金額を、役務を提供し、かつ当該金額が明らかになったときに計上しております。 投資助言報酬 投資助言報酬は投資顧問契約に基づき、助言を行うことに係る報酬で、顧客との契約で定める投資顧問報酬額、計算期間により算出された報酬金額を、役務を提供し、かつ当該金額が明らかになったときに計上しております。
-----------------------	---

（中間貸借対照表関係）

当中間会計期間末 (2023年9月30日)	
1 有形固定資産の減価償却累計額	17,734千円
2 消費税等の取扱い 仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺の上、「未払消費税等」として表示しております。	

（中間損益計算書関係）

当中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	
減価償却実施額	
有形固定資産	1,054千円
無形固定資産	-

（中間株主資本等変動計算書関係）

当中間会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当中間会計期間 増加株式数（株）	当中間会計期間 減少株式数（株）	当中間会計期間末 株式数（株）
発行済株式 普通株式	2,400	-	-	2,400
合計	2,400	-	-	2,400
自己株式 普通株式	1,200	-	-	1,200
合計	1,200	-	-	1,200

2. 配当に関する事項

該当事項はありません。

（金融商品関係）

当中間会計期間末（2023年9月30日）

1. 金融商品の時価等に関する事項

中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

	中間貸借対照表計上額 （千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1)投資有価証券 その他有価証券	9,976	9,976	-
資産計	9,976	9,976	-

(注)「預金」「未収委託者報酬」「未払手数料」及び「未払法人税等」については、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

2. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価で中間貸借対照表に計上している金融商品

区分	時 価 （千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合 計
投資有価証券 其他有価証券 投資信託	-	9,976	-	9,976
合 計	-	9,976	-	9,976

(注)時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

当社が保有している投資信託は、基準価額を用いて評価しており、その時価をレベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

当中間会計期間（2023年9月30日）

其他有価証券

	中間貸借対照表計上額 （千円）	取得原価 （千円）	差額 （千円）
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 投資信託	9,976	10,000	23
合 計	9,976	10,000	23

（収益認識関係）

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当中間会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

（単位：千円）

営業収益	
委託者報酬	284,646
運用受託報酬	18,199
投資助言報酬	850
その他	10,137
顧客との契約から生じる収益	313,833

2. 収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は「重要な会計方針4.収益及び費用の計上基準」に記載の通りであります。

（セグメント情報等）

〔セグメント情報〕

当社は、資産運用に関する事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

〔関連情報〕

当中間会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

1. サービスごとの情報

単一のサービス区分の営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

（1）営業収益

本邦顧客からの営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

（2）有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

該当事項はありません。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

該当事項はありません。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

	当中間会計期間 (自 2023年 4 月 1日 至 2023年 9 月30日)
1 株当たり純資産額	1,260,857円58銭
1 株当たり中間純利益金額	48,319円79銭

(注) 1 . 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 . 1 株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	当中間会計期間 (自 2023年 4 月 1日 至 2023年 9 月30日)
中間純利益金額 (千円)	57,983
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-
普通株式に係る中間純利益金額 (千円)	57,983
普通株式の期中平均株式数 (株)	1,200

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己又はその取締役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。）又は子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。）と有価証券の売買その他の取引又は店頭デリバティブ取引を行うこと。

委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

訴訟事件その他の重要事項

該当事項はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1) 受託会社

三菱UFJ信託銀行株式会社

(再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社)

資本金の額

2023年11月末現在、324,279百万円

事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

名 称	資本金の額（百万円） 2023年11月末現在	事業の内容
株式会社中国銀行	15,149	日本において銀行業務を営んでおります。
中銀証券株式会社	2,000	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

(3) 投資顧問会社

三菱UFJ信託銀行株式会社

資本金の額

2023年11月末現在、324,279百万円

事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

2【関係業務の概要】

（１）受託会社は、主に以下の業務を行います。

信託財産の保管、管理および計算

委託会社の指図に基づく信託財産の処分

（２）販売会社は、主に以下の業務を行います。

受益権の募集の取扱い

収益分配金の再投資

収益分配金、償還金および解約金の支払いの取扱い

投資信託説明書（交付目論見書）、投資信託説明書（請求目論見書）および運用報告書の交付の取扱い

解約請求の受付、買取請求の受付・実行

（３）投資顧問会社は、主に以下の業務を行います。

ファンドの運用のための情報および助言等の提供

3【資本関係】

（１）受託会社

該当事項はありません。

（２）販売会社

該当事項はありません。

（３）投資顧問会社

該当事項はありません。

第3【その他】

- 1 目論見書の別称として「投資信託説明書（交付目論見書）」または「投資信託説明書（請求目論見書）」と称することがあります。
- 2 目論見書の表紙または表紙裏に、以下を記載することがあります。
 - （１）目論見書の使用開始日
 - （２）ファンドの基本的性格等
 - （３）委託会社の名称、金融商品取引業者登録番号、設立年月日
 - （４）委託会社の電話番号および受付時間ならびにインターネット・ホームページのアドレス
 - （５）図案、キャッチコピー、委託会社のロゴマーク等
- 3 目論見書の表紙または表紙裏に、以下の趣旨の文言の全部または一部を記載することがあります。
 - （１）金融商品取引法第13条の規定に基づく目論見書である旨
 - （２）ファンドの財産は受託会社において信託法に基づき分別管理されている旨
 - （３）ファンドに関する投資信託説明書（請求目論見書）を含む詳細な情報は委託会社または委託会社のホームページにおいて閲覧できるほか、投資者の請求により販売会社から交付される旨
 - （４）投資信託約款の全文は請求目論見書に掲載されている旨
 - （５）有価証券届出書の効力発生および効力発生の有無について委託会社への照会先にて確認できる旨
 - （６）ファンドの内容に関して重大な変更を行う場合には、投資信託及び投資法人に関する法律に基づき事前に受益者の意向を確認する旨
 - （７）ファンドの財産は受託会社において信託法に基づき分別管理されている旨
 - （８）販売会社に請求目論見書を請求した場合にはその旨を自身で記録しておくべき旨
 - （９）ファンドの販売会社および基準価額等について委託会社の照会先にて問い合わせができる旨
 - （１０）ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みいただきたい旨
- 4 目論見書は電子媒体等として使用されるほか、インターネット等に掲載されることがあります。

独立監査人の監査報告書

2023年 6 月30日

中銀アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業 務 執 行 社 員

公認会計士 齊藤 幸治

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている中銀アセットマネジメント株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第36期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、中銀アセットマネジメント株式会社の2023年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1．上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
 - 2．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2023年 6 月30日

中銀アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業 務 執 行 社 員

公認会計士 齊藤 幸治

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている先進国資産配分コントロールファンド＜安定型＞の2022年4月26日から2023年4月24日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、先進国資産配分コントロールファンド＜安定型＞の2023年4月24日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、中銀アセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

中銀アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

１．上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

２．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2023年 6 月30日

中銀アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業 務 執 行 社 員

公認会計士 齊藤 幸治

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている先進国資産配分コントロールファンド＜成長型＞の2022年4月26日から2023年4月24日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、先進国資産配分コントロールファンド＜成長型＞の2023年4月24日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、中銀アセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

中銀アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1．上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
 - 2．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2023年11月30日

中銀アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 齊 藤 幸 治

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている中銀アセットマネジメント株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの第37期事業年度の中間会計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、中銀アセットマネジメント株式会社の2023年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入

手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的
手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。

- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1．上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
 - 2．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2023年12月26日

中銀アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 齊 藤 幸 治

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている先進国資産配分コントロールファンド＜安定型＞の2023年4月25日から2023年10月24日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、先進国資産配分コントロールファンド＜安定型＞の2023年10月24日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2023年4月25日から2023年10月24日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、中銀アセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。

- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

中銀アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1．上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
 - 2．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2023年12月26日

中銀アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業 務 執 行 社 員

公認会計士 齊 藤 幸 治

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている先進国資産配分コントロールファンド＜成長型＞の2023年4月25日から2023年10月24日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、先進国資産配分コントロールファンド＜成長型＞の2023年10月24日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2023年4月25日から2023年10月24日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、中銀アセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。

- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

中銀アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1．上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
 - 2．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。